

がっこう ほうじん かない がくえん
学校法人 金井学園

ふくいけん いりょう ふくし せんもん がっこう
福井県医療福祉専門学校

かいごふくしがっか
介護福祉学科

ねん ど に ゆ う が く せ い
2026年度入学生
じ ゆ ぎ よ う が い よ う
授業概要

(シラバス)

し めい
氏 名

へんこう たんとこうし じじょう じっし じき ないよう か
カリキュラムの変更や担当講師の事情によっては、実施時期・内容が、変わることがあります。

ねんせい ぜんき かいこうかもく 1年生 前期開講科目			
かもく めい 科目名	ページ 頁	がくねん 学年	たんとう 担当
しゃかいふくしろん 社会福祉論	1	1	みずの 水野
ぶんしょうひょうげん 文章表現	2	1	みずしま 水嶋
みゆーじっくけあ ミュージックケア	3	1	みやがわ 宮川
こうれいしゃ せいかつ ふくし 高齢者の生活と福祉	4	1	こばやし 小林
レクリエーションの基本	5	1	てらだ 寺田
コミュニケーション技術 I	6	1	かわばた 川端
にんちしょう りかい 認知症の理解 I	7	1	みずしま 水嶋
こころとからだのしくみ I	8	1	マイヤー

ねんせい こうき かいこうかもく 1年生 後期開講科目			
かもく めい 科目名	ページ 頁	がくねん 学年	たんとう 担当
にんげんかんけい こみゆにけーしょん I 人間関係とコミュニケーション I	9	1	かわばた 川端
しょう しゃ せいかつ ふくし 障がい者の生活と福祉	10	1	こばやし 小林
コミュニケーション技術 II	11	1	かわばた 川端
せいかつえんじょ 生活援助	12	1	いがらし 五十嵐
ふくし 福祉レクリエーション I	13	1	てらだ 寺田
かいごかてい 介護過程 I	14	1	みずしま 水嶋
はったつ ろうか りかい 発達と老化の理解 I	15	1	こばやし 小林
にんちしょう りかい 認知症の理解 II	16	1	みずしま 水嶋
こころとからだのしくみ II	17	1	マイヤー

つうねんかいこうかもく 通年開講科目			
かもく めい 科目名	ページ 頁	がくねん 学年	たんとう 担当
かいご がいろん 介護概論	18	1	てらだ 寺田
せいかつしえんぎじゆつ 生活支援技術 I	19	1	てらだ 寺田
かいご そうごう えんしゆう 介護総合演習 I	20	1	てらだ かわばた 寺田/川端
かいごじっしゆう 介護実習 I	21	1	かいごせんしん 介護専任
しょう りかい 障がいの理解	22	1	こばやし 小林
いりようてき 医療的ケア I	23	1	マイヤー
Welfare Time I	24	1	かわばたてらだ こばやし 川端/寺田/小林

ねんせい ぜんき かいこうかもく 2年生 前期開講科目			
かもく めい 科目名	ページ 頁	がくねん 学年	たんとう 担当
にんげんかんけい 人間関係とコミュニケーションⅡ	25	2	かわばた 川端
ふくし 福祉レクリエーションⅡ	26	2	かわばた 川端
かいごかてい 介護過程Ⅱ	27	2	みずしま 水嶋
はったつ ろうか りかい 発達と老化の理解Ⅱ	28	2	こばやし 小林
医療的ケアⅡ	29	2	マイヤー
こころとからだのしくみⅢ	30	2	マイヤー

ねんせい こうき かいこうかもく 2年生 後期開講科目			
かもく めい 科目名	ページ 頁	がくねん 学年	たんとう 担当
じれいけんとう 事例検討	31	2	かいごせんにん 介護専任
けんこうかがく 健康科学	32	2	すぎた 杉田
リハビリテーション論	33	2	こばやし(よし) 小林(義)
ふくし 福祉レクリエーションⅢ	34	2	てらだ 寺田
介護過程Ⅲ	35	2	みずしま 水嶋

つうねんかいこうかもく 通年開講科目			
かもく めい 科目名	ページ 頁	がくねん 学年	たんとう 担当
しゃかい りかい 社会の理解	36	2	こばやし 小林
せいかつしえんぎじゆつ 生活支援技術Ⅱ	37	2	てらだ 寺田
せいかつしえんぎじゆつ 生活支援技術Ⅲ	38	2	さとう 佐藤
かいご そうごうえんしゆう 介護総合演習Ⅱ	39	2	みずしま 水嶋
かいご じっしゆう 介護実習Ⅱ	40	2	かいごせんにん 介護専任
Welfare TimeⅡ	41	2	みずしま てらだ 水嶋/寺田

授業概要

<p>じゆぎょうかもくめい 授業科目名 しゃかいふくしろん 社会福祉論</p>	<p>じゆぎょう しゆるい 授業の種類 こうぎ 講義</p>		<p>じゆぎょうたんとうしゃ 授業担当者 みずの まさのぶ 水野 正伸</p>
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数 かい 15回</p>	<p>じ かんすう 時間数 じ かん 30時間</p>	<p>はいとう がくねん 配当学年 ねんせい 1年生</p>	<p>はいとうじ き 配当時期 ぜんき 前期</p>
<p>じゆぎょう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>ふくじっせん こんてい しゃかいふくし りねん まな じっせん ひつよう しゃかいふくし せいど どうこう りかい じっせんきばん こう 福祉実践の根底となる社会福祉の理念を学び、実践において必要な社会福祉の制度や動向を理解し、実践基盤の構 ちく 築につなげていく。</p> <p>じゆぎょうぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>しゃかいふくし ほうてききばん れきしてきへんせん とお しゃかいふくし りねん い ぎ まな しゃかいふくし せいど りかい け 社会福祉の法的基盤や歴史の変遷を通して、社会福祉の理念と意義を学ぶ。また、社会福祉の制度などを理解し、権 んりようご しゃかいふくし きばん まな そうだんえんじよ ちゆうしん せんもんぎじゆつ りかい ちいきふくし すいしん げんだい しゃ 利擁護などの社会福祉の基盤を学ぶ。さらに、相談援助を中心とした専門技術を理解し、地域福祉の推進など現代の社 かいふくし どうこう まな 会福祉の動向を学ぶ。</p> <p>じゆぎょうえゆうりよえ たつせいかだい とうたつもくひよう 【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none">しゃかいふくし れきしてきへんせん りかい い ぎ しえん してん りかい ・社会福祉の歴史の変遷を理解するとともに、その意義や支援の視点を理解する。しゃかいふくし せいど しく りかい ・社会福祉の制度とその仕組みについて理解する。しゃかいふくし そうだんえんじよ い ぎ ほうほう りかい ・社会福祉における相談援助の意義と方法を理解する。しゃかいふくし りようしゃ ほご しく りかい ・社会福祉における利用者の保護とその仕組みを理解する。しゃかいふくし どうこう かだい りかい ・社会福祉の動向と課題について理解する。			
<p>じゆぎょう ないよう じゆぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none">しゃかいふくし りねん かだい しゃかいふくし がいねん ほうてききばん まな 1. 社会福祉の理念と課題①－社会福祉の概念について法的基盤から学ぶしゃかいふくし りねん かだい ふくし しゃかいさんか なに まな 2. 社会福祉の理念と課題②－福祉ニーズおよび社会参加とは何かを学ぶしゃかいふくし りねん かだい じりつ びようどう しえん かた まな 3. 社会福祉の理念と課題③－自立と平等の支援のあり方について学ぶしゃかいふくし れきしてきへんせん しゃかいふくし れきしてき とく まな 4. 社会福祉の歴史の変遷①－社会福祉の歴史的な取り組みについて学ぶしゃかいふくし れきしてきへんせん ふくしてきしえん にな て まな 5. 社会福祉の歴史の変遷②－福祉的支援の担い手について学ぶしゃかいふくし かくぶんや ふくし しゃかいふくし かくぶんや ふくし しえん きほんてき かんがが かた まな 6. 社会福祉と各分野の福祉－社会福祉と各分野の福祉とのつながりと、支援の基本的な考え方について学ぶりようしゃ けんりようご りようしゃ けんりようご じっせん まな 7. 利用者の権利擁護－利用者の権利擁護とその実践について学ぶしゃかいふくし せいど しゃかいふくし ほうりつ まな 8. 社会福祉の制度①－社会福祉の法律について学ぶしゃかいふくし せいど しゃかいふくし くに ちほうこうきょうだんたい やくわり じっしき かん まな 9. 社会福祉の制度②－社会福祉における国および地方公共団体の役割と実施機関について学ぶしゃかいほけん しゃかいほけん ないよう まな 10. 社会保険－社会保険の内容について学ぶりようしゃ ほご しく しゃかいふくし りようしゃほご しく まな 11. 利用者を保護する仕組み－社会福祉における利用者保護の仕組みについて学ぶしゃかいふくし そうだんえんじよ そうだんえんじよ い ぎ げんそく まな 12. 社会福祉の相談援助①－相談援助の意義と原則について学ぶしゃかいふくし そうだんえんじよ そうだんえんじよ ほうほう ぎじゆつ まな 13. 社会福祉の相談援助②－相談援助の方法と技術について学ぶしゃかいふくし どうこう かだい かだい ざいたくふくし ちいきふくし すいしん まな 14. 社会福祉の動向と課題－の課題と在宅福祉・地域福祉の推進を学ぶしけん 15. 試験			
<p>じよう さんこうぶんけん 【使用テキスト・参考文献】 『せいかづ れい しゃかいふくし せいとうしゃ 生活事例からはじめる 社会福祉』青踏社</p>		<p>たんいにてい ほうほうおよ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】 しけん ひようかきじゆん (試験やレポートの評価基準など) じゆぎょうたいど かくにん けつか ていしゆつづつとう ふく しけん そう 授業態度(確認テスト結果、提出物等を含む)と試験の総 ごうひようか 合評価とする。</p>	

授 業 概 要

じゅぎょうかめく めい 授業科目名 ぶんしよかようげん 文章表現	じゅぎょう しゆるい 授業の種類 えんしゆう 演習	じゅぎょうたんとうしゃ 授業担当者 みずしま みわ 水嶋 美和	
じゅぎょう かいすう 授業の回数 かい さいしゆうかい しけん 15回(最終回は試験)	じかん すう 時間数 じかん 30時間	はいとうがくねん 配当学年 ねんじ 1年次	はいとうじき 配当時期 ぜんき 前期

【授業の目的・ねらい】

じっしゆう ひつよう ぶんしよかようげん えんしゆう とお りかい
実習において必要とされる文章表現を演習を通して理解する。

【授業全体の内容の概要】

けいご ぶんぼう ぶんしよか かの かたなど きほんてき ちしき まな えんしゆう とお きろく かく ようてん
敬語や文法、文章の書き方等について基本的な知識を学び、演習を通して、記録やレジュメ、レポートを書く力や要点を
まとめる力を身に付ける。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

てきせつ ひょうげんほうほう もち じっしゆうけいかくしよおよ きろく など しよしき おう きにゆう ぎのう しゆうとく
適切な表現方法を用い、実習計画書及び記録、レジュメ等を書式に応じて記入できる技能を習得する。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

- じっしゆう ひつよう ぶんしよかようげん
1 実習に必要な文章表現
- じっしゆう ひつよう しゆるい かの かた
2 実習に必要な書類の書き方①
- じっしゆう ひつよう しゆるい かの かた
3 実習に必要な書類の書き方②
- じっしゆう ひつよう しゆるい かの かた
4 実習に必要な書類の書き方③
- きろく かの かた
5 記録の書き方①
- きろく かの かた
6 記録の書き方②
- きろく かの かた
7 記録の書き方③
- きろく かの かた
8 記録の書き方④
- きろく かの かた
9 記録の書き方⑤
- れいじょう かの かた
10 お礼状の書き方
- およ じっしゆうほうこくげんこう かの かた
11 レジュメ及び実習報告原稿の書き方①
- およ じっしゆうほうこくげんこう かの かた
12 レジュメ及び実習報告原稿の書き方②
- およ じっしゆうほうこくげんこう かの かた
13 レジュメ及び実習報告原稿の書き方③
- およ じっしゆうほうこくげんこう かの かた
14 レジュメ及び実習報告原稿の書き方④
- しけん
15 試験

【使用テキスト・参考文献】

しん
新・介護福祉士養成講座10
かいご そうごう えんしゆう かいご じっしゆう ちゆうおつ ほうき しけんぽん
「介護総合演習・介護実習」中央法規出版

【単位認定の方法及び基準】

しけん ひょうかきじゆん
(試験やレポートの評価基準など)
じゅぎょうたいど しけん ていしゆうつぶしゆつせきじよきょうそうごうひょうか
授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価 とする。

授業概要

<p>じゆぎょうかめく めい 授業科目名</p> <p>ミュージックケア</p>	<p>じゆぎょう しゆるい 授業の種類</p> <p>演習</p>		<p>じゆぎょうたんどうしゃ 授業担当者</p> <p>みやがわ みゆき 宮川 深雪</p>
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゅうかい しけん 8回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数</p> <p>じかん 15 時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねん 1年</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>ぜん き 前期</p>
<p>じゆぎょう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>かいごのげんば いっかん おんがくりょうほう がいよう りろんとぎじゆつ 介護の現場で、ケアの一環として音楽療法の概要とミュージック・ケアの理論と技術を身につけ、</p> <p>しえんしゃ こころ じっせん 支援者として心のこもった実践ができるようにする。</p> <p>じゆぎょうぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>1.ミュージック・ケアの理論を学ぶ。2.メソッドの基本曲を中心に目的と技術を習得する。</p> <p>たいしゅうしゃ しんしん じっさい しゅうとく 3.対象者のグループカウンセリング、心身のケアを実際にできるように習得する。</p> <p>じゆぎょうしゅうりょう たっせいかだい とうたつ もくひよう 【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>げんば そく じっせん ぎじゆつ こころ しえん 現場で、即、実践につながるような技術と心のこもった支援ができるようになる。</p>			
<p>じゆぎょう ないよう じゆぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>かいご 介護コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ミュージック・ケアの理論と実際 2 楽曲習得①と実践プログラム 3 楽曲習得②と支援の方法 4 楽曲習得③と支援の方法 5 楽曲習得④と支援の方法 6 楽曲習得⑤と支援の方法 7 楽曲習得⑥とまとめ 8 介護コース試験 			
<p>しやう さんこう ぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>『ミュージック・ケア その基本と実際』 宮本啓子 『だれでも・どこでも・いつでも』 磁場の会 『ミュージック・ケア 実技編』 日本ミュージック・ケア協会</p>	<p>たんい にんてい ほうほう およ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひょうか きじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技試験・レポート提出・受講態度により評価する。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。 		

授 業 概 要

授業科目名 <small>じゆぎょうか もくめい</small> こうれいしゃ せいいかつ ふくし 高齢者の生活と福祉	授業の種類 <small>じゆぎょう しゆらい</small> こうぎ 講義		授業担当者 <small>じゆぎょうだんどうしゃ</small> こばやし さかえ 小林 栄
授業の回数 <small>じゆぎょう かいすう</small> かい 15回	時間数 <small>じ かん すう</small> じ かん 30時間	配当学年 <small>はいどうがくねん</small> ねんせい 1年生	配当時期 <small>はいどうじ き</small> ぜん き 前期

【授業の目的・ねらい】

こうれいしゃ どうこう せいいかつづたい りかい こうれいしゃふくしおよ こうれいしゃ けんりようごとう せいど しさく かいごじっせん ひつよう
 高齢者の動向や生活実態を理解し、高齢者福祉及び高齢者の権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な
かんてん き そてき ちしき まな
 観点から基礎的な知識を学ぶ。

【授業全体の内容の概要】

- こうれいしゃふくしせいど きほんてき かんが がかた かいごほけんせいど ないよう りかい こうれいしゃふくし げんじよう かない
 ・高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を
りかい ないよう
 理解する内容。
- にんげん そんげん じりつ かなか けんりようご かいごじっせん かんれん せいど しさく きほんてき かんが がかた
 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを
りかい ないよう
 理解する内容。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

- こうれいしゃ どうこう せいいかつづたい りかい
 ・高齢者の動向と生活実態について理解する。
- こうれいしゃふくしせいど きほんてき かんが がかた かいごほけんせいど ないよう りかい こうれいしゃふくし げんじよう かない
 ・高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題
りかい
 を理解する。
- にんげん そんげん じりつ かなか けんりようご かいごじっせん かんれん せいど しさく きほんてき かんが がかた
 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを
りかい
 理解する。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

- こうれいしゃ どうこう せいいかつづたい こうれいしゃ しゃかいてきりかい
 1. 高齢者の動向と生活実態—高齢者の社会的理解①
- こうれいしゃ どうこう せいいかつづたい こうれいしゃ しゃかいてきりかい
 2. 高齢者の動向と生活実態—高齢者の社会的理解②
- かいごほけんせいどそうせつ はいけい もくてき かいごほけんせいど どうこう
 3. 介護保険制度創設の背景と目的—介護保険制度の動向①
- かいごほけんせいどそうせつ はいけい もくてき かいごほけんせいど どうこう
 4. 介護保険制度創設の背景と目的—介護保険制度の動向②
- かいごほけんせいど きそてきりかい
 5. 介護保険制度のしくみの基礎的理解①
- かいごほけんせいど きそてきりかい
 6. 介護保険制度のしくみの基礎的理解②
- かいごほけんせいど きそてきりかい
 7. 介護保険制度のしくみの基礎的理解③
- かいごほけんせいど きそてきりかい
 8. 介護保険制度のしくみの基礎的理解④
- かいごほけんせいど そしき だんたい きのう やくわり
 9. 介護保険制度における組織・団体の機能と役割①
- かいごほけんせいど そしき だんたい きのう やくわり
 10. 介護保険制度における組織・団体の機能と役割②
- かいごほけんせいど せんもんしよく やくわり
 11. 介護保険制度における専門職の役割①
- かいごほけんせいど せんもんしよく やくわり
 12. 介護保険制度における専門職の役割②
- かいごじっせん かんれん じよせいど こうれいしゃぎやくたひぼうしほう きそてきりかい
 13. 介護実践に関連する諸制度—高齢者虐待防止法の基礎的理解①
- かいごじっせん かんれん じよせいど こうれいしゃぎやくたひぼうしほう きそてきりかい
 14. 介護実践に関連する諸制度—高齢者虐待防止法の基礎的理解②
15. 試験

【使用テキスト・参考文献】

さいしん かいごふくししよせいこうぞう しゃかい りかい ちゆうおうほうき
 『最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解』中央法規
しよ しゃ せいいかつ ふくし
 ※「障がい者の生活と福祉」と同じ

【単位認定の方法及び基準】

しけん ひようかきじゆん
(試験やレポートの評価基準など)
 じゆぎょうたいど かくにん けつか ていしゆぶつとう ふく しけん
 授業態度 (確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の
そうごうひようか
 総合評価 とする。

授 業 概 要

<p style="text-align: center;">じゅぎょうかめく めい 授業科目名</p> <p style="text-align: center;">れくりえーしょん きほん レクリエーションの基本</p>	<p style="text-align: center;">じゅぎょう しゅるい 授業の種類</p> <p style="text-align: center;">えんしゅう 演習</p>		<p style="text-align: center;">じゅぎょうたんとうしゃ 授業担当者</p> <p style="text-align: center;">てらだ ともき 寺田 知生</p>
<p style="text-align: center;">じゅぎょう かいすう 授業の回数</p> <p style="text-align: center;">かい さいしゅうかい しけん 15回(最終回は試験)</p>	<p style="text-align: center;">じかん すう 時間数</p> <p style="text-align: center;">じかん 30 時間</p>	<p style="text-align: center;">はいとうがくねん 配当学年</p> <p style="text-align: center;">ねんせい 1年生</p>	<p style="text-align: center;">はいとうじき 配当時期</p> <p style="text-align: center;">ぜんき 前期</p>
<p>じゅぎょう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>こころ げんき しゅし もと たの こち かつよう ひとひと しえん かんがかた ぎじゅつ まな 心を元気にするというレクリエーションの主旨を基に楽しさや心地よさを活用して人々を支援するための考え方や技術を学び、レクリエーション支援の基礎を理解・体得し、レクリエーションの意義を理解する。</p> <p>しえん きそ りかい たいとく いぎ りかい 【授業全体の内容の概要】</p> <p>レクリエーション概論、心の元気づくりの理論、レク支援の理論、レク支援方法を理論と実技を織り交ぜながら手段であるレク活動を有効に活用するための技術について学ぶ。</p> <p>じゅぎょうぜんたい ないよう がいよう 【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>しえん しゅだん かつどう まな ひと こころ りろん こんきょ とお レクリエーション支援と手段としてのレクリエーション活動について学び、人の心の理論を根拠に、ホスピタリティを通したコミュニケーション技法とアイスブレイキングの技術を基に対象者主体のレクリエーション活動を行える支援者となる。</p>			
<p>じゅぎょう ないよう じゅぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに:アイスブレイキング体験 2. レクリエーション概論 3. 楽しさと心の元気づくりの理論 4. レクリエーション支援の理論:第1節 5. レクリエーション支援の方法:第1節・ホスピタリティ 6. レクリエーション支援の理論:第2節 7. レクリエーション支援の方法:第2節・アイスブレイキング 8. レクリエーション支援の理論:第3節 9. レクリエーション支援の方法:第3節・ハードル設定とCSSプロセス 10. 安全管理の方法 11. レクリエーション活動の習得・演習Ⅰ 12. レクリエーション活動の習得・演習Ⅱ 13. レクリエーション活動の習得・演習Ⅲ 14. レクリエーション支援のプログラムの立案 15. 試験 			
<p>しやう さんこうぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>楽しさをとおした心の元気づくり</p> <p>レクリエーション支援の基本の理論と方法</p> <p>レクリエーション・インストラクターテキスト</p> <p>さい にほん きよつかい (財)日本レクリエーション協会</p>	<p>たんい にんてい ほうほうおよ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひょうか きじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>しゅつせきようきようじゅぎょうたいど えんしゅうしけん ていしゅぶつ そうごうひょうか ・出席状況・授業態度・演習・試験・提出物の総合評価。</p> <p>いじょう しゅつせき そうごうひょうか てんいじょう たんい あた ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。</p> <p>レク・インストラクターの資格試験を兼ねる。</p>		

じゆ　ぎよう　がい　よう
授　業　概　要

<p style="text-align: center;">じゆぎようかもく　めい 授業科目名</p> <p style="text-align: center;">ぎじゆつ コミュニケーション技術 I</p>	<p style="text-align: center;">じゆぎよう　しゆるい 授業の種類</p> <p style="text-align: center;">こうぎ 講義</p>		<p style="text-align: center;">じゆぎようたんとうしゃ 授業担当者</p> <p style="text-align: center;">かわばた　よしこ 川端　慶子</p>
<p style="text-align: center;">じゆぎよう　かいすう 授業の回数</p> <p style="text-align: center;">かい　さいしゆかい　しけん 15回(最終回は試験)</p>	<p style="text-align: center;">じかん　すう 時間数</p> <p style="text-align: center;">じかん 30時間</p>	<p style="text-align: center;">はいとうがくねん 配当学年</p> <p style="text-align: center;">ねん 1年</p>	<p style="text-align: center;">はいとうじき 配当時期</p> <p style="text-align: center;">ぜんき 前期</p>
<p>じゆぎよう　もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>たいじんえんじよ　ぎじゆつ　きそ　まな 対人援助におけるコミュニケーション技術の基礎を学ぶ。</p> <p>じゆぎようぜんたい　ないよう　がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>いぎ　えんしゆう　もち コミュニケーションの意義・目的を講義し、グループワークや演習、テキストを用いながら授業を行う。</p> <p>じゆぎようしゆりよび　たっせいゆだいい　とうたつ　もくひよう 【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>きそ　ぎじゆつ　ちしき　しゆとく 基礎のコミュニケーション技術や知識を習得できる。</p>			
<p>じゆぎよう　ないよう　じゆぎようほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. かいご　きほん 介護におけるコミュニケーションの基本 2. かいご　きほん 介護におけるコミュニケーションの基本 3. きほん　ぎじゆつ コミュニケーションの基本技術 4. きほん　ぎじゆつ コミュニケーションの基本技術 5. しょうがい　たいおう コミュニケーション障害への対応 6. しょう 小テスト 7. たいしゆしや　とくせい　おう 対象者の特性に応じたコミュニケーション 8. たいしゆしや　とくせい　おう 対象者の特性に応じたコミュニケーション 9. たいしゆしや　とくせい　おう 対象者の特性に応じたコミュニケーション 10. たいしゆしや　とくせい　おう 対象者の特性に応じたコミュニケーション 11. たいしゆしや　とくせい　おう 対象者の特性に応じたコミュニケーション 12. たいしゆしや　とくせい　おう 対象者の特性に応じたコミュニケーション 13. たいしゆしや　とくせい　おう 対象者の特性に応じたコミュニケーション 14. まとめ 15. しけん 試験 			
<p>しょう　さんこう　ぶんげん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>さいしんかいごふくししゆせいこうぎ　5　こみゆにけーしよんぎじゆつ 最新介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術</p>	<p>たんい　にんてい　ほうほう　およ　きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん　ひようか　きじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>いじよう　しゆつせき ・2/3以上の出席。</p> <p>ていきしけん・じゆぎようたいどそうこうひようか。 ・定期試験・授業態度の総合評価とする。</p>		

授 業 概 要

<p>じゆぎょうかもく めい 授業科目名 にんち しょう りかい 認知症の理解 I</p>	<p>じゆぎょう しゆるい 授業の種類 こう ぎ 講 義</p>		<p>じゆぎょうたんとうしゃ 授業担当者 みずしま みわ 水嶋 美和</p>
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数 かい さいしゅうかい しけん 15回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数 じかん 30時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年 ねんせい 1年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期 ぜん き 前 期</p>
<p>【授業の目的・ねらい】 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や当事者からの視点から、それぞれの原因疾患に応じた特性があることを理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 認知症の原因疾患や原因疾患に応じた特性、その他、認知症に関する医学的な基礎的知識、認知症の人の心理について学び、その人の特性に応じた支援を行う際に必要な基礎知識を理解する内容とする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 認知症の歴史を踏まえ、現在の認知症ケアの理念について考え、意識して取り組むことができるようになる。また、認知症の特性について医学・行動・心理・生活面からの理解ができ、原因疾患に応じたケアの方法を考えることができるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症のある高齢者の現状と今後 2. 認知症とは何か 3. 脳のしくみ 4. 認知症の人の心理 5. 中核症状の理解 6. 生活障害の理解 7. BPSDの理解 8. 認知症の診断と重症度 9. 認知症の原因疾患と症状・生活障害 10. 認知症の治療薬 11. 認知症の予防 12. 認知症の人を取り巻く状況—これまで—今—これから 13. 認知症ケアの理念と視点 14. 認知症当事者の視点からみえるもの 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 さいしん 最新・介護福祉士養成講座13 「認知症の理解」中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 しけん ひょうか せじゆん (試験やレポートの評価基準など) ひつき しけん ていしゆつ ぶつ しゅつせき じょうきょう じゆぎょう たいど そうご ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの 総 う ひょうか 合評価とする。 いじょう しゅつせき そうごう ひょうか てんいじょう たんい あた ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位 を与 える。</p>	

じゅ　ぎょう　がい　よう
授　業　概　要

<p style="text-align: center;">じゅぎょうかもく　めい 授業科目名</p> <p style="text-align: center;">こころとからだのしくみ I</p>	<p style="text-align: center;">じゅぎょう　しゅるい 授業の種類</p> <p style="text-align: center;">こうぎ 講義</p>		<p style="text-align: center;">じゅぎょうたんとうしゃ 授業担当者</p> <p style="text-align: center;">ひとみ マイヤー　瞳</p>
<p style="text-align: center;">じゅぎょう　かいすう 授業の回数</p> <p style="text-align: center;">かい　さいしゅうかい　しけん 15回(最終回は試験)</p>	<p style="text-align: center;">じかん　すう 時間数</p> <p style="text-align: center;">じかん 30時間</p>	<p style="text-align: center;">はいとがくねん 配当学年</p> <p style="text-align: center;">ねんせい 1年生</p>	<p style="text-align: center;">はいとろき 配当時期</p> <p style="text-align: center;">ぜんき 前期</p>
<p>じゅぎょう　もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>かいごぎじゅつこんきょじんたいのこうぞうやきのうおよびかいごさびすのていきょうにおけるあんぜんへのりゆういてんやしんりてきそくめんはいりよりかい 介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。</p> <p>じゅぎょうぜんたい　ないよう　がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>ひと 人のこころやからだのしくみに関する基本的な医学的知識を根拠を持って理解できるよう指導する。それを介護の視点 「せいかつしえんぎじゅつ」とれんどうしてす で生かすことができるよう「生活支援技術」と連動して進めていく。</p> <p>じゅぎょうしゅうりょう　たっせいかだい　とうたつもくひよう 【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>りょうめんからりようしゃのじょうたいをみて　じょうたいがどのような　よういんから　ひきおこ こころとからだの両面から利用者の状態を見てその状態がどのような要因から引き起こされているのか根拠となる知識を習得する。</p>			
<p>じゅぎょう　ないよう　じゅぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康」とは何か 2. こころのしくみを理解する① 3. こころのしくみを理解する② 4. こころのしくみを理解する③ 5. からだのしくみを理解する① 6. からだのしくみを理解する② 7. からだのしくみを理解する③ 8. からだのしくみを理解する④ 9. 身じたくに関連したしくみ① 10. 身じたくに関連したしくみ② 11. 身じたくに関連したしくみ③ 12. 移動に関連したしくみ① 13. 移動に関連したしくみ② 14. 移動に関連したしくみ③ 15. 試験 			
<p>しょう　さんこうぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>さいしん　かいごふくくしょうせいこうざ 最新・介護福祉士養成講座　14 「こころとからだのしくみ」中央法規</p> <p>じてん　なるみどうしゅつぱん 「からだの事典」　成美堂出版 プリント</p>	<p>【たんいにていのほうほうおよびきじゅん】 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけんやれぼーとのひょうかきじゅん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>ひっけしけん　ていしゅつ　しゅつせほうきょうじゅぎょう　いど　にほんごじゅぎょう　てんすう ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度、日本語授業の　点数 そうごうひょうか などの総合評価とする。</p> <p>いじょうのしゅつせき　そうごうひょうか60でんいじょうでたんいをあたえる ・2/3以上の出席および総合評価60点以上で単位を与える。</p>		

授 業 概 要

授業科目名 人間関係とコミュニケーション I	授業の種類 演習	授業担当者 川端 慶子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生
		配当時期 後期

【授業の目的・ねらい】

- 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の理論的課題への対応能力の基礎を学ぶ。
- 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を学ぶ。

【授業全体の内容の概要】

- 人権思想と、福祉理念の歴史の変遷
- 人間の尊厳と、人権尊重及び権利擁護の考え方
- 自立の意味と、本人主体の観点からの尊厳の保持や自己決定の考え方
- 人間関係の形成に必要な支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能の理解

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

- 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の理論的課題への対応能力の基礎を修得する。
- 対人援助に必要な関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を修得する。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

- 人間の尊厳と人権・福祉理念－人間の尊厳と利用者主体
- 人間の尊厳と人権・福祉理念－人権思想の潮流とその具現化
- 人間の尊厳と人権・福祉理念－社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷
- 人間の尊厳と人権・福祉理念－人権や尊厳に関する日本の諸規定、人権尊重と権利擁護
- 自立のあり方－自立の概念と多様性
- 自立のあり方－要介護者の尊厳と自立、自立支援の必要性
- 人間と人間関係－自分と他者の認識のずれについて考える
- 人間と人間関係－少数派が集団を変えるために必要なことを考える
- 対人関係におけるコミュニケーション－関係性によるあいさつの違いに含まれるメッセージについて考える
- 対人関係におけるコミュニケーション－非言語の種類とメッセージについて考える
- 対人援助関係とコミュニケーション－傾聴について考える
- 対人援助関係とコミュニケーション－バイステックの7つの原則について考える
- 組織におけるコミュニケーション－組織のコミュニケーションについて考える
- 組織におけるコミュニケーション－ブレインストーミングをやってみる
- 試験

【使用テキスト・参考文献】

『最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解』中央法規

【単位認定の方法及び基準】

(試験やレポートの評価基準など)

授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価

授業概要

授業科目名 障害者の生活と福祉	授業の種類 講義	授業担当者 小林 栄
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生
		配当時期 後期

【授業の目的・ねらい】

障害者を取り巻く社会情勢と生活実態を理解し、障害者福祉及び障害者の権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を学ぶ。

【授業全体の内容の概要】

- ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態を理解する内容。
- ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する内容。
- ・障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援制度の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を理解する内容。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

- ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について理解する。
- ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する。
- ・障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援制度の内容を理解する。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

1. 障害児・者を取り巻く社会情勢と生活実態①
2. 障害児・者を取り巻く社会情勢と生活実態②
3. 障害児・者を取り巻く社会情勢と生活実態③
4. 障害者総合支援制度創設の背景と目的①
5. 障害者総合支援制度創設の背景と目的②
6. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解①
7. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解②
8. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解③
8. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解④
8. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解⑤
10. 障害者総合支援制度における組織、団体の機能と役割①
10. 障害者総合支援制度における組織、団体の機能と役割②
13. 障害者に対するその他の施策①
14. 障害者に対するその他の施策②
15. 試験

【使用テキスト・参考文献】

『最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解』中央法規

【単位認定の方法及び基準】

試験やレポートの評価基準など
 授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。

授 業 概 要

<p>じゆぎよう かもく めい 授業科目名</p> <p>ぎじゆつ コミュニケーション技術Ⅱ</p>	<p>じゆぎよう しゆるい 授業の種類</p> <p>えん しゆう 演 習</p>		<p>じゆぎょうたんとうしや 授業担当者</p> <p>かわばた よしこ 川端 慶子</p>
<p>じゆぎよう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゆうかい しけん 15回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数</p> <p>じかん 30時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 1年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>こう き 後 期</p>
<p>じゆぎよう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p>			
<p>かいご げんば せんもん しょく けいせい そうごうりやく りようしや せいかつ さき りようしや かぞく た しよく 介護の現場では、さまざまな専門職がチームを形成し、総合力で利用者の生活を支えている。利用者やその家族、他職 種協働におけるチームのコミュニケーション能力を身に付けるために必要な知識と方法を学ぶ。その他、記録の活用がケ アの質向上につながることを理解するとともに、正しく記録を書けるようになることを目的とする。</p>			
<p>じゆぎよう ぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】</p>			
<p>きさく ぎじゆつ かいぎ およ じれいけんとう かん ぎじゆつ ち 「チームにおけるコミュニケーション」「記録の技術」「会議及び事例検討に関する技術」などについて、テキストを用いな がらワークを取り入れ学ぶ。</p>			
<p>じゆぎよう しゆうりよう じ たっせい かいだい とうたつ もくひよう 【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員間および他職種(専門職)間で協働的な関係を築くことができる。 ・記録の意義・目的について理解し、正しい書き方で記録ができる。 ・チームで一つの目的を達成するためのコミュニケーションについて理解することができる。 			
<p>じゆぎよう ないよう じゆぎよう ほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とのコミュニケーション 2. 家族とのコミュニケーション 3. チームのコミュニケーションとは 4. 報告・連絡・相談の技術 5. 記録の技術 6. 記録の技術 7. 会議・事例検討に関する技術 8. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 9. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 10. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 11. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 12. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 13. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 14. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 15. 試験 			
<p>しよふ さんこう ぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>さいしん かいご ふくし りようせい こうぎ 『最新介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』中央法規出版</p>	<p>たんい にんてい ほうほう およ きてん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひようか きてん (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席。 ・授業態度(小テストや提出物等を含む)と試験の総合評 価とする。 		

授 業 概 要

<p>じゆぎょうもくめい 授業科目名 せいかつせんじよ 生活援助</p>	<p>じゆぎょう しゆるい 授業の種類 演習</p>		<p>じゆぎょうたんとうしゃ 授業担当者 いがらし まり 五十嵐 茉莉</p>																																				
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数 かい さいしゅうかい しけん 15回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数 じかん 30時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年 ねんせい 1年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期 こう き 後 期</p>																																				
<p>じゆぎょう もくてき 【授業の目的・ねらい】 にちじょう きほんてき しょく ちしき み げんば じつせんりやく やしな 日常における基本的な食の知識を身につけ、現場での実践力を養う。</p> <p>じゆぎょうぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】 せいかつしえんぎじゆつ せいかつしえん ちようりじしゅう もと しょくせいかつ きほんちしき がくしゅう どうじ ちようり 生活支援技術 I および、生活支援のための調理実習を基に食生活の基本知識を学習し、同時に調理 じしゅう ししよく おこな ことか しかく しゆとく 実習・試食を行い、国家資格取得をめざす。</p> <p>じゆぎょうしゅうりよび たっせいゆだい とうたつ もくひよう 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ただ えいよう ちようり しょくぶんか ちしき しゅうとく しょくじ およ りようしゃ しんしん えいきよう はいりよ 正しい栄養・調理・食文化の知識を習得し、食事が及ぼす利用者の心身への影響について配慮できる じんざい いくせい 人材に育成する。</p>																																							
<p>じゆぎょう ないよう じゆぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】 せいかつしえん ぎじゆつ もと かき よてい こうぎ がくしゅう 生活支援技術 I を基に下記予定にて講義学習</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">だい かい</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">かいご</td> <td style="width: 70%;">介護における食事支援、食生活と栄養素</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">だい かい</td> <td style="text-align: center;">ちようりぎじゆつ きそ</td> <td>調理技術の基礎</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">だい かい</td> <td style="text-align: center;">こんだて た かた</td> <td>献立の立て方</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">だい かい</td> <td style="text-align: center;">しょくひんえいせい しょくちゅうどく よぼう</td> <td>食品衛生リスクと食中毒の予防</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">だい かい</td> <td style="text-align: center;">かくしょくひん ちようり とくせい</td> <td>各食品の調理特性</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">だい かい</td> <td style="text-align: center;">こうれいしや しょうがいしや しょくじ ちようり</td> <td>高齢者・障害者の食事と調理</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">だい かい</td> <td style="text-align: center;">しつかん しょくじ</td> <td>疾患と食事・まとめ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">だい かい</td> <td style="text-align: center;">しけん</td> <td>試験</td> </tr> </table> <p>ちようり じしゅう どうじ おこな ちようり ぎじゆつ がくしゅう また調理実習も同時に行い、調理技術も学習する。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">だい かい</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">しんざい</td> <td style="width: 70%;">和風総菜①</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">だい かい</td> <td style="text-align: center;">しんざい</td> <td>洋風総菜①</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">だい かい</td> <td style="text-align: center;">しんざい</td> <td>中華総菜①</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">だい かい</td> <td style="text-align: center;">しんざい</td> <td>和風総菜②</td> </tr> </table>				だい かい	かいご	介護における食事支援、食生活と栄養素	だい かい	ちようりぎじゆつ きそ	調理技術の基礎	だい かい	こんだて た かた	献立の立て方	だい かい	しょくひんえいせい しょくちゅうどく よぼう	食品衛生リスクと食中毒の予防	だい かい	かくしょくひん ちようり とくせい	各食品の調理特性	だい かい	こうれいしや しょうがいしや しょくじ ちようり	高齢者・障害者の食事と調理	だい かい	しつかん しょくじ	疾患と食事・まとめ	だい かい	しけん	試験	だい かい	しんざい	和風総菜①	だい かい	しんざい	洋風総菜①	だい かい	しんざい	中華総菜①	だい かい	しんざい	和風総菜②
だい かい	かいご	介護における食事支援、食生活と栄養素																																					
だい かい	ちようりぎじゆつ きそ	調理技術の基礎																																					
だい かい	こんだて た かた	献立の立て方																																					
だい かい	しょくひんえいせい しょくちゅうどく よぼう	食品衛生リスクと食中毒の予防																																					
だい かい	かくしょくひん ちようり とくせい	各食品の調理特性																																					
だい かい	こうれいしや しょうがいしや しょくじ ちようり	高齢者・障害者の食事と調理																																					
だい かい	しつかん しょくじ	疾患と食事・まとめ																																					
だい かい	しけん	試験																																					
だい かい	しんざい	和風総菜①																																					
だい かい	しんざい	洋風総菜①																																					
だい かい	しんざい	中華総菜①																																					
だい かい	しんざい	和風総菜②																																					
<p>しやう さんこう ぶんげん 【使用テキスト・参考文献】 *新・介護福祉士養成講座6 せいかつしえんぎじゆつ1 ちゆうおほうき 生活支援技術 I (中央法規) *生活支援のための調理実習 (建帛社)</p>	<p>たんい にんてい ほうほう およ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】 しけん ひょうか きじゆん (試験やレポートの評価基準など) ていき およ しゆつせきようきよう じゆぎょうたいど 定期テスト及び出席状況、授業態度 れぽうた など せいごう ひょうか レポートなどで総合評価</p>																																						

授 業 概 要

<p>じゅぎょうかめい 授業科目名</p> <p>ふくし 福祉レクリエーション I</p>	<p>じゅぎょう しゅるい 授業の種類</p> <p>えんしゅう 演習</p>		<p>じゅぎょうたんどうしゃ 授業担当者</p> <p>てらだ ともし 寺田 知生</p>
<p>じゅぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゅうかい しけん 15回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数</p> <p>じかん 30時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 1年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>こうき 後期</p>
<p>じゅぎょう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>げんば おこな しえん せってい しえん しゅうとく しえん ぎじゆつ たいしゅうしゃ 福祉の現場で行う支援のためのハードル設定、CSSプロセスなどのレクリエーションの支援技術習得と、その支援技術を対象者 あんしん さんか ため ていきよう み に安心して参加してもらうための提供の方法を身につける。</p> <p>じゅぎょうぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>たいしゅうしゃ あ かつどう せんたく かつどうげんば りつあん さくせい たいしゅうしゃ 対象者に合わせたレク活動を選択し、活動現場にあわせたプログラムの立案を作成すること。プログラミングしたものを対象者との そうご なか い しえん ぎじゆつ み えんしゅう おこな ひと ところ りろん ぎじゆつ あ りかい とお ぎじゆ 相互のかかわりの中で活かせる支援技術が身につくように演習を行い、人の心の理論とレク技術を合わせることの理解を通したレク技 つ こうじよう ところ げんき もと しえん ぎじゆつ しゅうとく 術を向上させる。また、心が元気になるようなCSSプロセスに基づいての支援方法等の技術を習得させる。</p> <p>じゅぎょうえいゆうりよ たいせいかだい どうたつもくひよう 【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>たいしゅうしゃ あ さくせい ところ げんき かつどう せんたく しえん 対象者に合わせたプログラム作成のもとに、心が元気になるレク活動の選択とレク支援が実践できるようになる。</p>			
<p>じゅぎょう ないよう じゅぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーション活動の習得 I 2. レクリエーション活動の習得 II 3. レクリエーション活動の習得 III 4. レクリエーション活動の習得 IV 5. CSSプロセスに基づいた支援法 I 6. CSSプロセスに基づいた支援法 II 7. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開体験 8. 小集団の相互作用を活かしたプログラム立案 9. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 I 10. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 II 11. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 III 12. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 IV 13. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 V 14. レクリエーション支援の理論確認 15. 試験 			
<p>しゅう さんこう ぶんげん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>たの ところ げんき ・楽しさとおとした心の元気づくり こうえきざいだんほうじん にほんれくりえーしんきょうかい 公益財団法人 日本レクリエーション協会</p>	<p>たんい にんてい ほうほう およ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひようか きじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>がくないしけん しゅつせきうきよめいこうたいど かだいていしゅつ ・学内試験、出席状況、受講態度、課題提出などの 総合評価とする。</p> <p>いじよう しゅつせき、そうごうひようか てんいじよう たんい にんてい ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を認定する。</p> <p>ふくし しかく しゅうとく がくないしけん べつ * 福祉レクワーカー資格取得は、学内試験とは別に ひつき しけん 日本レクリエーション 協会が実施する筆記試験・ 実技試験(個別・集団援助)を受験する。</p> <p>じつぎ しけん がくがいしけん か 実技試験は学外試験と兼ねる。</p>		

授業概要

<p>じゅぎょうかめく めい 授業科目名</p> <p>かいご かに 介護過程 I</p>	<p>じゅぎょう しゅるい 授業の種類</p> <p>こうぎ 講義</p>		<p>じゅぎょうたんとうしや 授業担当者</p> <p>みずしま みわ 水嶋 美和</p>		
<p>じゅぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゅうかい しけん 30 回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数</p> <p>じかん 60 時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねん 1年</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>こう き 後 期</p>		
<p>じゅぎょう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>かいごかにてい とお かいごかにてい いぎ りかい そんげん ほうじ じりつせん そ かいごれやくりつわん じつし ひょうか 介護過程 I IIを通し、介護過程の意義を理解し、尊厳の保持、自立支援に沿ったアセスメントおよび介護計画の立案・実施・評価の一連の思 いあれん しこうかにてい りかい かいごかにてい かいごかにてい いぎもくてき りかい せいかつじょう かだい みいだ 考過程を理解する。したがって介護過程 I では、介護過程の意義目的を理解する。また生活上の課題を見出すために、どのように人を理解して いくのか等を考えながら、アセスメント力を高める。ここでは、情報収集の方法を習得しながら、情報読み取る力、情報の持つ意味を考える力、利 じゅぎょうも いみ かんが ちから りょうしや たらば た せいかつじょう かだい かんが ちから み 用者の立場に立ちながら、生活上の課題を考える力を身につける。</p> <p>じゅぎょうぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>もち かいごかにてい てんかい ほつほう こうぎ じつしゆつたいけん じれい とお かいごかにてい てんかい りかにてきるよ パワーポイントを用い介護過程の展開の方法を講義する。 実習体験や事例、グループワークを通し、介護過程の展開を理解でき うくふうする。 るよう丁未する。</p> <p>じゅぎょうしゅうりょう たいせいかだい どうたつ もくひよう 【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>りかい りよく たか 介護過程(思考過程)を理解し、アセスメント力を高める。</p>					
<p>じゅぎょう ないよう じゅぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「生活」とは 2. 高齢者の生活の理解 3. 「かかわり」について考える 4. 利用者の願いや思いに気づく 5. 利用者の願いや思いに気づく 6. 思考過程とはなにか 7. 課題解決思考 8. 課題解決思考 9. 客観的思考 科学的思考とは何か 10. 客観的思考 科学的思考とは何か 11. アセスメントとは 12. 観察とは 13. 情報収集の手段 14. 情報収集の手段 15. ICFと介護過程 </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. ICFと介護過程 17. 情報を整理する 18. 情報を整理する 19. 介護過程におけるニーズとは 20. 介護過程におけるニーズとは 21. 事例に基づきアセスメントを行う 22. 事例に基づきアセスメントを行う 23. 事例に基づきアセスメントを行う 24. 事例に基づきアセスメントを行う 25. 事例に基づきアセスメントを行う 26. 事例に基づきアセスメントを行う 27. 目標とは 28. 目標設定の留意点 29. 一連の展開について説明する 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 「生活」とは 2. 高齢者の生活の理解 3. 「かかわり」について考える 4. 利用者の願いや思いに気づく 5. 利用者の願いや思いに気づく 6. 思考過程とはなにか 7. 課題解決思考 8. 課題解決思考 9. 客観的思考 科学的思考とは何か 10. 客観的思考 科学的思考とは何か 11. アセスメントとは 12. 観察とは 13. 情報収集の手段 14. 情報収集の手段 15. ICFと介護過程 	<ol style="list-style-type: none"> 16. ICFと介護過程 17. 情報を整理する 18. 情報を整理する 19. 介護過程におけるニーズとは 20. 介護過程におけるニーズとは 21. 事例に基づきアセスメントを行う 22. 事例に基づきアセスメントを行う 23. 事例に基づきアセスメントを行う 24. 事例に基づきアセスメントを行う 25. 事例に基づきアセスメントを行う 26. 事例に基づきアセスメントを行う 27. 目標とは 28. 目標設定の留意点 29. 一連の展開について説明する 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「生活」とは 2. 高齢者の生活の理解 3. 「かかわり」について考える 4. 利用者の願いや思いに気づく 5. 利用者の願いや思いに気づく 6. 思考過程とはなにか 7. 課題解決思考 8. 課題解決思考 9. 客観的思考 科学的思考とは何か 10. 客観的思考 科学的思考とは何か 11. アセスメントとは 12. 観察とは 13. 情報収集の手段 14. 情報収集の手段 15. ICFと介護過程 	<ol style="list-style-type: none"> 16. ICFと介護過程 17. 情報を整理する 18. 情報を整理する 19. 介護過程におけるニーズとは 20. 介護過程におけるニーズとは 21. 事例に基づきアセスメントを行う 22. 事例に基づきアセスメントを行う 23. 事例に基づきアセスメントを行う 24. 事例に基づきアセスメントを行う 25. 事例に基づきアセスメントを行う 26. 事例に基づきアセスメントを行う 27. 目標とは 28. 目標設定の留意点 29. 一連の展開について説明する 30. 試験 				
<p>しやう さんこうぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>ちゅうおうほうき 中央法規 さいしんかいご ふくし ぜんしよ だい かん かいご かにてい 最新介護福祉全書 第9巻「介護過程」</p> <p>さんこうぶんけん じれい もち 参考文献 さまざまな事例を用いる</p>		<p>たんい にんてい ほうほう およ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひょうか きじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>いじよう しゅつせき ・2/3以上の出席。</p> <p>・ひつきしけん、じゅぎょうたいど、ていしゅつぶつなど そうごうひょうか ・筆記試験、授業態度、提出物等の総合評価とする。</p>			

授 業 概 要

授業科目名 はったつ ろうか りかい 発達と老化の理解 I	授業の種類 こうぎ 講義	授業担当者 こばやし さかえ 小林 栄
授業の回数 かい さいしゅうかい しけん 15 回(最終回は試験)	時間数 じかん 30時間	配当学年 はいとうがくねん ねんせい 1年生
配当時期 かいとうじき こうき 後期		

【授業の目的・ねらい】

ひと せいちょう はったつ かつて りかい ろうねんき しんしん きのうてき へんか とくちよう かん きそてき ちしき まな
 人の成長・発達する過程を理解し、老年期における心身や機能的変化および特徴に関しての基礎的な知識を学ぶこと
 もくてき
 を目的とする。

【授業全体の内容の概要】

ろうねんき はったつかだい こうれいしゃ おお しょうじょうしつぺい とくちよう ろうか こうれいしゃ せいかつ えいきよう しんたいてき せいし
 老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的・精神
 的な側面から捉え、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識について概説する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

かれい ともな せいじゆく とくちよう うしな きのう とくちよう はったつかだい りかい
 加齢に伴う成熟の特徴と失われていく機能の特徴、発達課題を理解する。また、高齢者に多い疾病や老化に伴う機能
 低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、支援技術の根拠となる知識を身に付ける。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

1. 発達とは
2. 人間の発達段階と発達課題
3. 発達と個人差
4. 老化とは
5. 老年期の発達課題の留意点
6. 老化が及ぼす心理的影響
7. 老いの価値観・受容
8. 高齢者の心の問題と精神障害
9. 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活①
10. 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活②
11. 老化に伴う知的機能の変化と日常生活
12. 高齢者の症状・疾患の特徴
13. 高齢者に多い症状・訴えと留意点①
14. 高齢者に多い症状・訴えと留意点②
15. 試験

【使用テキスト・参考文献】

さいしん かいご ふくしし ようせいこうざ
 最新・介護福祉士養成講座11・14
 はったつ ろうか りかい
 「発達と老化の理解」

ちゅうおほうき しゅつぱん
 中央法規出版

はいふ
 プリント配布

【単位認定の方法及び基準】

しけん ひょうか きじゆん
(試験やレポートの採点基準など)
 ひつき しけん ていしゆぶつ しゅつせきようきよう じゆぎょうたいど にほんごじゆぎょう
 ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度、日本語授業の
 点数などの総合評価とする。
 いじよう しゅつせき そうごう ひょうか てんいじよう
 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で
 たんい あた
 単位を与える。

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
にんち しょう りかい 認知症の理解Ⅱ	こうぎ 講義		みずしま みわ 水嶋 美和
じゆぎょう かいすう 授業の回数	じかん すう 時間数	はいとうがくねん 配当学年	はいとうじき 配当時期
かい さいしゅうかい しけん 15回(最終回は試験)	じかん 30時間	ねんせい 1年生	こうぎ 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>これまでで学んだ認知症に関する基礎的知識を基に、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学習する。また、認知症に関連した制度を学び、多職種種や地域の人と連携し、地域で認知症の人を支える必要性とその方法についても学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>テキストに沿い、認知症ケアの実際、家族の心理及び支援、環境、地域における支援などが理解できるよう講義をしていく。その他、事例を通して、認知症の方特有の問題点、課題を探り、生活支援について学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>認知症の基本症状や状態像を理解し、その方の暮らしの在り方を考えられる。 家族を支援する必要性を学び、ともに認知症の人を支えていくための支援を考え実践することができる。 認知症の人が地域で暮らすための必要性を理解し、具体的な支援方法を考え示すことができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の人の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメント・ツール 2. 認知症の人の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメント・ツール 3. 認知症の人とのコミュニケーション 4. 認知症の人へのケア 5. 認知症の人へのさまざまなアプローチ 6. 認知症の人の人生の最終段階における医療と介護 7. 環境づくり 8. 家族への支援 9. 介護福祉職への支援 10. 地域共生社会における認知症ケア 11. 地域共生社会における認知症ケア 12. 多職種連携と協働 13. 多職種連携と協働 14. 1年次からのまとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>さいしん 最新・介護福祉士養成講座13 にんちしょう りかい ちゅうおう ほうぎや 「認知症の理解」中央法規社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひょうかきじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>いじょう しゅつぎ ・2/3以上の出席。</p> <p>ひつき しけん ていしゅつ ぶつ じゆぎょう たいど そうごう ひょうか ・筆記試験・提出物・授業態度の総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

<p>じゅぎょう かいめい 授業科目名</p> <p>こころとからだのしくみⅡ</p>	<p>じゅぎょう しゅるい 授業の種類</p> <p>こうぎ 講義</p>		<p>じゅぎょうたんとうしや 授業担当者</p> <p>ひとみ マイヤー 瞳</p>
<p>じゅぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゅうかい しけん 15回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数</p> <p>じかん 30時間</p>	<p>はいとうかくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 1年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>こうぎ 後期</p>
<p>じゅぎょう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>かい ごじゆつ こんきよ じんたい こうぞう き のう かいご ていきょう あんぜん りゆういてん しんりてき 介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的 そくめん はいりよ りかい 側面への配慮について理解する。</p> <p>じゅぎょうぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>せいかつし えん おこなさい ひつよう およ き のう ていか しょうがい せいかつ およ えいきょう りかい 生活支援を行う際に必要となる、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 しゅうまつき しんしん へんか せいかつ およ えいきょう まな しんしん じょうきょう おう し えん おこなさい ひつよう き そちしき また、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、心身の状況に応じた支援を行う際に必要な基礎知識を りかい ないよう 理解する内容とする。</p> <p>じゅぎょうりゆうりよ たつせいかだい とうたつむくひよう 【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>りようめんからりようしやのじょうたいをみて じょうたいがどのような よういんから ひきおこ こんきよとなる ちしき をしゅ こころとからだの両面から利用者の状態を見てその状態がどのような要因から引き起こされているのか根拠となる知識を うとく りようしやのそんげんのそんちようとしりつをし えん てきせつなかいごほうをみちびきだす 習得する。そこから利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことができる。</p>			
<p>じゅぎょう ないよう じゅぎょうりゆうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. しょくじにかんれん 食事に関連したしくみ① 2. しょくじにかんれん 食事に関連したしくみ② 3. しょくじにかんれん 食事に関連したしくみ③ 4. にゅうよく・せいけつほじにかんれん 入浴・清潔保持に関連したしくみ① 5. にゅうよく・せいけつほじにかんれん 入浴・清潔保持に関連したしくみ② 6. にゅうよく・せいけつほじにかんれん 入浴・清潔保持に関連したしくみ③ 7. はいせつにかんれん 排泄に関連したしくみ① 8. はいせつにかんれん 排泄に関連したしくみ② 9. はいせつにかんれん 排泄に関連したしくみ③ 10. すいみんにかんれん 睡眠に関連したしくみ① 11. すいみんにかんれん 睡眠に関連したしくみ② 12. しにゆくひとにかんれん 死にゆく人に関連したしくみ① 13. しにゆくひとにかんれん 死にゆく人に関連したしくみ② 14. しにゆくひとにかんれん 死にゆく人に関連したしくみ③ まとめ 15. しけん 試験 			
<p>しやう きんこうぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>さいしん かいごふくししやうせいこうざ 最新・介護福祉士養成講座 11 ちゆうおうほうき 「こころとからだのしくみ」中央法規 じてん なるみどうしゅつばん 「からだの事典」 成美堂出版 プリント</p>		<p>[たんいにていひのほうほうおよびきじゆん] 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけんやれぼ一とのひょうかきじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>ひつきしけん ていしゅぶつ しゅつせきようきようじゅぎょうたいど にほんごじゅぎょう ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度、日本語授業の てんすう そうごうひょうか 点数などの総合評価とする。 いじょうのしゅつせき そうごうひょうか てんいじょう たんい ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位 あた を与える</p>	

授 業 概 要

<p>じゆぎょうかめく めい 授業科目名</p> <p>かいご いろいろん 介護概論</p>	<p>じゆぎょう しゆるい 授業の種類</p> <p>こうぎ 講義</p>		<p>じゆぎょうたんとうしや 授業担当者</p> <p>てらだ とも き 寺田 知生</p>		
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゅうかい しけん 30回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数</p> <p>じかん 60時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 1年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>つうねん 通年</p>		
<p>じゆぎょう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>かいご もくてき ていぎ れきし かいご ふくし と ま げんじょう りんり せいど しょもんだいとう かいご きほんてき りろん まな 介護の目的、定義、歴史、介護福祉を取り巻く現状、倫理、制度、諸問題等介護の基本的理論を学ぶ。</p> <p>じゆぎょうぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>かいごのきほん かいごの もくてき、ていぎ、れきし、かいごふくし げんじょう、りんり、せいど えんしゅう 介護の基本となる介護の目的、定義、歴史、介護福祉を取り巻く現状、倫理、制度について、グループワークや演習、テキストに沿って授業を進める。</p> <p>しちようかく きようざい もち りようしや りかい かいご りかい むす DVDなどの視聴覚教材を用いながら、利用者理解、介護サービスの理解に結びつける。</p> <p>じゆぎょうしゅうりよび たっせいかだい とうたつもくひょう 【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>かいごふくしし せんもんせい そうごうてき りかい もくひょう 介護福祉士の専門性について総合的に理解することを目標とする。</p>					
<p>じゆぎょう ないよう じゆぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(日本の社会の状況) 2. 介護福祉士を取り巻く状況 3. 介護福祉の歴史 4. 社会福祉士および介護福祉士法 5. 介護福祉を支える団体 6. 章末テスト 7. 介護における自立支援の概念 8. 介護におけるノーマライゼーションの理念 9. ケアワークの定義 10. リハビリテーションの定義 11. 対人援助技術の原則と方法の尊重 12. 章末テスト 13. 介護の専門職と倫理 14. 介護の専門職と倫理 15. 前期まとめ </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 介護保険制度の概要 17. 生活を支えるサービス 18. 地域支援事業 19. 障害者総合支援法のサービスについて 20. 章末テスト 21. 多職種連携 22. 地域連携 23. 居住の整備 24. 章末テスト 25. 介護における安全の意義 26. 感染対策 27. 健康管理の意義と目的 28. からだとこころの健康管理 29. 後期のまとめ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(日本の社会の状況) 2. 介護福祉士を取り巻く状況 3. 介護福祉の歴史 4. 社会福祉士および介護福祉士法 5. 介護福祉を支える団体 6. 章末テスト 7. 介護における自立支援の概念 8. 介護におけるノーマライゼーションの理念 9. ケアワークの定義 10. リハビリテーションの定義 11. 対人援助技術の原則と方法の尊重 12. 章末テスト 13. 介護の専門職と倫理 14. 介護の専門職と倫理 15. 前期まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護保険制度の概要 17. 生活を支えるサービス 18. 地域支援事業 19. 障害者総合支援法のサービスについて 20. 章末テスト 21. 多職種連携 22. 地域連携 23. 居住の整備 24. 章末テスト 25. 介護における安全の意義 26. 感染対策 27. 健康管理の意義と目的 28. からだとこころの健康管理 29. 後期のまとめ 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(日本の社会の状況) 2. 介護福祉士を取り巻く状況 3. 介護福祉の歴史 4. 社会福祉士および介護福祉士法 5. 介護福祉を支える団体 6. 章末テスト 7. 介護における自立支援の概念 8. 介護におけるノーマライゼーションの理念 9. ケアワークの定義 10. リハビリテーションの定義 11. 対人援助技術の原則と方法の尊重 12. 章末テスト 13. 介護の専門職と倫理 14. 介護の専門職と倫理 15. 前期まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護保険制度の概要 17. 生活を支えるサービス 18. 地域支援事業 19. 障害者総合支援法のサービスについて 20. 章末テスト 21. 多職種連携 22. 地域連携 23. 居住の整備 24. 章末テスト 25. 介護における安全の意義 26. 感染対策 27. 健康管理の意義と目的 28. からだとこころの健康管理 29. 後期のまとめ 30. 試験 				
<p>しりょう さんこう ぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>さいしんかいごふくししやうせいこうざ 3 かいごのきほん1 最新介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I</p> <p>さいしんかいごふくししやうせいこうざ 4 かいごのきほん2 最新介護福祉士養成講座 4 介護の基本 II</p>	<p>たんい にんてい ほうほう およ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひょうか きじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>いじよう しゅっせき ・2/3以上の出席。</p> <p>ていき しけん じゆぎょうたいど そうごう ひょうか ・定期試験・授業態度の総合評価とする。</p>				

授 業 概 要

授業科目名 せいかつしえん ぎじゆつ 生活支援技術 I	授業の種類 じゆぎよう しゆらい 演習	授業担当者 てらだ とも き 寺田 知生
授業の回数 かい さいしゆかい しけん 30 回(最終回は試験)	時間数 じかん 60 時間	配当学年 はいとうがくねん ねん 1年
配当時期 はいとうじき つうねん 通年		

【授業の目的・ねらい】
 りようしゃのそんげんをそんちよう きほんてき かいごのちしき・ぎじゆつ・たいどをしゆうとく かいごばめん てきせつにじっせん のう
 利用者の尊厳を尊重し、基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、さまざまな介護場面において適切に実践できる能力を養う。

【授業全体の内容の概要】
 きほんてき かいごぎじゆつ もくてき りゆういてん こうぎ えんしゆう きほん てきぎじゆつ しゆうとく じゆぎよう おこな
 基本的な介護技術の目的・留意点を講義し、演習にて基本的技術を習得できるよう授業を行う。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】
 しんしんのじようきよう おうじた かいごをていききよう かいご ぎじゆつ きほん ちしき・ぎじゆつをしゆうとく
 心身の状況に応じた介護を提供できるよう介護技術の基本となる知識・技術を習得する。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

1. 授業の概要(生活支援技術とは) 2. ボディメカニクスと介護の言葉 3. 移動の介護 4. 実技 車椅子の操作方法 5. 実技 ベッドメイキング 6. 実技 ベッド上の移動 座位 立位 7. 実技 確認試験 8. 身支度の介護 9. 口腔ケアの意義・目的 10. 実技 更衣 11. 実技 更衣 12. 食事の介護 13. 食事の介助方法 14. 前期のまとめ 15. 実技試験 更衣	16. 安楽な体位 17. 実技 安楽な体位 18. 実技 安楽な体位 19. 入浴の意義・目的 20. 入浴介助の留意点 21. 排泄の意義 失禁のメカニズム 22. 排泄介助の留意点 23. 実技 排泄介助 24. 実技 排泄介助 25. 実技試験 排泄 26. 実技 排泄介助 27. 実技 排泄介助 28. 実技試験 排泄 29. まとめ 30. 試験
---	--

【使用テキスト・参考文献】
 ちゆうおうほうき
 中央法規
 さいしんかいご ふくし ぜんしよ だい かん せいかつしえん ぎじゆつ だい ぼん
 最新介護福祉全書 第6巻「生活支援技術 I」(第2版)
 さいしんかいご ふくし ぜんしよ だい かん せいかつしえん ぎじゆつ だい ぼん
 最新介護福祉全書 第7巻「生活支援技術 II」(第2版)

【単位認定の方法及び基準】
 しけん ひようか きじゆん
(試験やレポートの評価基準など)
 いじよう しゆつせき
 ・2/3以上の出席。
 ひつき しけん じつぎ じつぎ しけ
 ・筆記試験については60点以上 実技については実技試験にて基準を満たすこと
 じようき そうごう ひようか たんい にんてい
 上記の総合評価によって単位を認定する。

授 業 概 要

<p>じゆぎょうかまく めい 授業科目名</p> <p>かいご そうごう えんしゅう 介護総合演習 I</p>	<p>じゆぎょう しゆるい 授業の種類</p> <p>えんしゅう 演習</p>		<p>じゆぎょうたんとうしゃ 授業担当者</p> <p>てらだ とも き かわばた よしこ 寺田 知生 / 川端 慶子</p>		
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゅうかい しけん 30 回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数</p> <p>じかん 60 時間</p>	<p>はいどうがくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 1 年生</p>	<p>はいどうじき 配当時期</p> <p>つうねん 通年</p>		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>かいごじしゅう いぎ もくてき りかい じしゅう じゆんび じゆるい さくせい ところがま じしゅうちゅう じしゅうちゅうきひょう せつてい きろく 介護実習の意義、目的について理解し、実習における準備(書類作成や心構え)、実習中(実習目標の設定、記録や カンファレンスの実施)、実習後の振り返りなどを通し、利用者理解、サービス事業所・施設の理解に努める。また実習を振 かえ じぶん じしん かだい めいかく きかい り返り、自分自身の課題を明確にする機会とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>かいご じしゅう いぎ じぎょうしょ がいよう かいご じしゅう ところがま こうぎ 介護実習の意義、事業所の概要、介護実習の心構えを講義する。</p> <p>じしゅうまえ じゆんび かくにん じしゅうちゅう しどう じしゅうご ぶ かえ きかい つく 実習前の準備や確認、実習中の指導、実習後の振り返る機会を作る。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>かいご じしゅう いぎ りかい かいご ひつよう ちしき ぎじゆつ い じしゅうご かだい めいかく かいご じしゅう 介護実習の意義について理解し、介護に必要な知識、技術を活かすことができる。実習後の課題を明確にし、介護実習 む じこ かだい かくにん もくひよう II へ向けて自己の課題の確認ができることを目標とする。</p>					
<p>じゆぎょう ないよう じゆぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="236 1084 555 1792"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習の意義と目的 2. 介護実習 I の概要 3. 生活の場・利用者の理解 4. 記録について 5. 記録について 6. 記録について 7. 記録について 8. 実習の心構え 9. 実習指導者とのオリエンテーション 10. カンファレンス/お礼状の書き方 11. 実習担当教員との確認 12. 介護実習 I A の振り返り 13. 介護実習 I A の振り返り 14. 介護実習 I A の振り返り 15. 介護実習 I B の概要 </td> <td data-bbox="874 1084 1289 1792"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 介護実習 I B の事業所の理解 17. 介護実習 I B の事業所の理解 18. 介護実習 I B の事業所の理解 19. 介護実習 I B の準備 20. 実習指導者とのオリエンテーション 21. 実習担当教員との打ち合わせ 22. 介護実習 I B の準備 23. お礼状 24. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 25. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 26. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 27. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 28. 介護実習 II の報告会から学ぶ 29. 介護実習 II の報告会から学ぶ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習の意義と目的 2. 介護実習 I の概要 3. 生活の場・利用者の理解 4. 記録について 5. 記録について 6. 記録について 7. 記録について 8. 実習の心構え 9. 実習指導者とのオリエンテーション 10. カンファレンス/お礼状の書き方 11. 実習担当教員との確認 12. 介護実習 I A の振り返り 13. 介護実習 I A の振り返り 14. 介護実習 I A の振り返り 15. 介護実習 I B の概要 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護実習 I B の事業所の理解 17. 介護実習 I B の事業所の理解 18. 介護実習 I B の事業所の理解 19. 介護実習 I B の準備 20. 実習指導者とのオリエンテーション 21. 実習担当教員との打ち合わせ 22. 介護実習 I B の準備 23. お礼状 24. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 25. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 26. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 27. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 28. 介護実習 II の報告会から学ぶ 29. 介護実習 II の報告会から学ぶ 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習の意義と目的 2. 介護実習 I の概要 3. 生活の場・利用者の理解 4. 記録について 5. 記録について 6. 記録について 7. 記録について 8. 実習の心構え 9. 実習指導者とのオリエンテーション 10. カンファレンス/お礼状の書き方 11. 実習担当教員との確認 12. 介護実習 I A の振り返り 13. 介護実習 I A の振り返り 14. 介護実習 I A の振り返り 15. 介護実習 I B の概要 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護実習 I B の事業所の理解 17. 介護実習 I B の事業所の理解 18. 介護実習 I B の事業所の理解 19. 介護実習 I B の準備 20. 実習指導者とのオリエンテーション 21. 実習担当教員との打ち合わせ 22. 介護実習 I B の準備 23. お礼状 24. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 25. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 26. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 27. 介護実習 I B の振り返り(報告会) 28. 介護実習 II の報告会から学ぶ 29. 介護実習 II の報告会から学ぶ 30. 試験 				
<p>しやう さんこう ぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>さいしん 最新・介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版</p>	<p>たんい にんてい ほうほう およ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひょうか きじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>いじよう しゆつせき ・2/3以上の出席。 ひつき しけん ていしゆがつ さんか ・筆記試験・提出物・ボランティアへの参加・ じゆぎょうたいど そうごう ひょうか 授業態度の総合評価とする。</p>				

授業概要

授業科目名 介護実習 I	授業の種類 実習	授業担当者 介護専任
授業の回数	時間数 180 時間	配当学年 1年生
		配当時期 通年

【授業の目的・ねらい】

さまざまな生活の場において、コミュニケーションの実践、介護技術の確認、対人援助におけるマナー等を習得し、個々の目標達成に向け課題を明確にし、実践する。

【授業全体の内容の概要】

介護実習 I a (老人福祉施設、老人保健施設のいずれか) および介護実習 I b (通所介護、認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護のいずれか) で実習を行う。

- 介護実習目標に沿って、指導者のスーパービジョンを受けながら主体的に実習に取り組む。
- 多くの利用者とは出会い、介護を必要とする人の理解およびその必要な技術を習得する。
- 実習では疑問を言語化、文章化し、解決に努力する。
- さまざまな暮らしの場を理解できる。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

- 利用者の状態把握し、個々に応じた介護の知識、技術を理解・実践できる。
- 介護業務内容を理解し、目標に沿った介護行動の実際や利用者の反応、結果や考察を記録できる。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

指定規則第五条第一項第十四号イに規定する厚生労働大臣が別に定めるもの

- 老人福祉法に規定する老人居宅生活支援事業並びに老人デイサービスセンター

ター、老人短期入所施設、養護老人ホーム及び特別養護老人ホーム

- 介護保険法に規定する指定居宅サービス(訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、福祉用具貸与及び特定福祉用具販売を除く。)を行う事業所、地域密着型サービス

を行う事業所、指定施設サービスを行う施設、指定介護予防サービス(介護予防通所リハ

ビリテーション、介護予防居宅療養管理指導、介護予防福祉用具貸与及び介護予防特定福祉用具販売を除く。)を行う事業所及び指定介護予防地域密着型サービスを行う事業所

- 障害者総合支援法に規定する障害福祉サービス事業及び障害者支援施設

配属実習

①介護実習 I a (90時間)

入所施設にて実習を行う。

②介護実習 I b (90時間)

居宅サービスおよび地域密着型サービス(指定介護老人福祉施設を除く)で実習を行う。

【使用テキスト・参考文献】

実習の手引き、介護総合演習 I テキスト

【単位認定の方法及び基準】

(試験やレポートの評価基準など)

- 4/5以上の出席。
- 実習態度、実習記録など実習施設による総合評価に基づき、実習担当教員の協議により総合的に判定する。

授 業 概 要

<p>じゆぎょうかめく めい 授業科目名</p> <p>しょう りかい 障がい理解</p>	<p>じゆぎょう しゆるい 授業の種類</p> <p>こうぎ 講義</p>		<p>じゆぎょうたんどしや 授業担当者</p> <p>こばやし さかえ 小林 栄</p>
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゅうかい しけん 30回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数</p> <p>じかん 60時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 1年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>つうねん 通年</p>

【授業の目的・ねらい】
 しょうがいのきそてきりかいとしてしょうがいのがいねん・しょうがいしゃふくしのきほんりねんをまなび、しょうがいのあるひとのせいかつやしょうがいしゅべつのりかいをしたうえで、そのこんきよとなるちきをしゆ
 障害の基礎的理解として障害の概念・障害者福祉の基本理念を学び、障害のある人の生活や障害種別の理解をしたうえで、その
 うとくすることをもくてきとする。
 根拠となる知識を習得することを目的とする。

【授業全体の内容の概要】
 しょうがいのがいねん にんげんとしやかいとかんれんづけながらすすめてい いかくてきそくめん きそちしき しょうがい
 障害の概念については「人間と社会」と関連づけながら進めていく。医学的側面からの基礎知識としてそれぞれの障害について、
 しょうじょうやがつべいししょう にちじょうせいかつにおよぼすえいきょうを せいかつしえんぎしゅつとかんれん りかいできるょう りゆうい
 その症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を「生活支援技術」と関連づけて理解できるよう留意する。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】
 しょうがいのある ひとのしんりや きそてきちきを しゅうとくするとともに、 しょうがいのあるひとの たいけんをりかいし、 かぞくをふくめた しゅういの かんきょう
 障害のある人の心理や基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護
 にもはいりよしたかいごのしてんをりかいする。
 の視点を理解する。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念① 2. 障害の概念② 3. 障害者福祉の基本理念① 4. 障害者福祉の基本理念② 5. 障害者福祉に関連する制度 6. 肢体不自由のある人の生活① 7. 肢体不自由のある人の生活② 8. 視覚障害のある人の生活 9. 聴覚・言語障害のある人の生活 10. 重複障害のある人の生活 11. 知的障害のある人の生活 12. 精神障害のある人の生活 13. 高次脳機能障害のある人の生活 14. 発達障害のある人の生活 15. まとめ 小テスト | <ol style="list-style-type: none"> 16. 心臓機能障害のある人の生活 17. 呼吸機能障害のある人の生活 18. 腎臓機能障害のある人の生活 19. 膀胱・直腸機能障害のある人の生活 20. 小腸機能障害のある人の生活 21. HIVによる免疫機能障害のある人の生活 22. 肝臓機能障害のある人の生活 23. 重症心身障害のある人の生活 24. 難病のある人の生活 25. 地域におけるサポート体制 26. 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携 27. 社会資源の利用と開発 28. 家族への支援 29. まとめ 30. 試験 |
|--|--|

【使用テキスト・参考文献】

さいしん かいご ふくしし ようせいこうざ だい はん
 最新・介護福祉士養成講座14(第2版)

しょうがい りかい
 「障害の理解」 中央法規出版

【単位認定の方法及び基準】

しけん ひょうか きじゆん
(試験やレポートの評価基準など)

ひつき しけん ていしゅぶつ しゅつせききょうじゆぎょうたいど
 ・筆記試験・提出物・出席状況・授業態度などから
 そうごう ひょうか
 総合評価をする。

いじょう しゅつせき およ そうごう ひょうか てんいじょう たんい
 ・2/3以上の出席、及び総合評価60点以上で単位を
 あた
 与える。

授 業 概 要

<p>じゆぎょうか もくめい 授業科目名</p> <p>いりょうてき 医療的ケア I</p>	<p>じゆぎょう しゆらい 授業の種類</p> <p>こうぎ 講義</p>		<p>じゆぎょうたんとうしゃ 授業担当者</p> <p>ひとみ マイヤー 瞳</p>		
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゅうかい し けん 30回(最終回は試験)</p>	<p>じ かんすう 時間数</p> <p>じつじかん じ かん 実時間50 時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 1年生</p>	<p>はいとうじ き 配当時期</p> <p>つうねん 通年</p>		
<p>じゆぎょう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>かいご ふくしし いりょうてき じっし しゃかいてきははいけい かくたんきゆういん いりょうてき ごうほうか 介護福祉士による医療的ケア実施の社会的背景や、喀痰吸引などの医療的ケアが合法化されたことを理 解する。医療職との連携のもとで喀痰吸引、経管栄養を安全に実施できるための必要な知識、倫理観を身 につける。</p> <p>じゆぎょうぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>いりょうてき じっし かん せいで がいようおよ いりょうてき かんれん こじん そんげん じりつ いりょうてき じっし 医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケア を実施する ための感染予防」、「安全管理体制」などについての基礎知識を理解する内容とする。</p> <p>じゆぎょうしゅうりょうじ たっせいいか だい どうたつもくひょう 【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>かいごふくしし いりょうてき じっし い ぎ かくたんきゆういん けいかんえいようとう ひつよう ちしき りんりかん 介護福祉士として医療的ケアを実施することの意義、喀痰吸引、経管栄養等に必要な知識、倫理観に ついて理解する。</p>					
<p>じゆぎょう ないよう じゆぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="223 1030 550 1780"> <ol style="list-style-type: none"> なぜ医療的ケアを行うのか 医行為と制度について 医行為と制度について 安全な療養生活 ① 安全な療養生活 ② 安全な療養生活 ③ 感染予防と清潔保持 ① 感染予防と清潔保持 ② 健康状態の把握 ① 健康状態の把握 ② 呼吸のしくみと働き 喀痰吸引とは 喀痰吸引で用いる器具器材と清潔の保持 救急蘇生 人工呼吸器と吸引 </td> <td data-bbox="869 1030 1471 1780"> <ol style="list-style-type: none"> 人工呼吸器と吸引② 子どもの吸引・喀痰吸引に伴うケア 利用者や家族の気持ちと対応・感染予防 急変、事故発生時の対応と事前対策・報告・記録 消化器のしくみと働き・消化器の主な症状 経管栄養で用いる器具・器材と清潔の保持 経管栄養剤の知識 経管栄養実施上の留意点・子どもの経管栄養 経管栄養に必要なケア・利用者や家族の気持ち 経管栄養に関する感染予防・安全確認 急変時の対応と報告・記録 経管栄養の実施手順 経管栄養の実施手順 まとめ 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> なぜ医療的ケアを行うのか 医行為と制度について 医行為と制度について 安全な療養生活 ① 安全な療養生活 ② 安全な療養生活 ③ 感染予防と清潔保持 ① 感染予防と清潔保持 ② 健康状態の把握 ① 健康状態の把握 ② 呼吸のしくみと働き 喀痰吸引とは 喀痰吸引で用いる器具器材と清潔の保持 救急蘇生 人工呼吸器と吸引 	<ol style="list-style-type: none"> 人工呼吸器と吸引② 子どもの吸引・喀痰吸引に伴うケア 利用者や家族の気持ちと対応・感染予防 急変、事故発生時の対応と事前対策・報告・記録 消化器のしくみと働き・消化器の主な症状 経管栄養で用いる器具・器材と清潔の保持 経管栄養剤の知識 経管栄養実施上の留意点・子どもの経管栄養 経管栄養に必要なケア・利用者や家族の気持ち 経管栄養に関する感染予防・安全確認 急変時の対応と報告・記録 経管栄養の実施手順 経管栄養の実施手順 まとめ 試験
<ol style="list-style-type: none"> なぜ医療的ケアを行うのか 医行為と制度について 医行為と制度について 安全な療養生活 ① 安全な療養生活 ② 安全な療養生活 ③ 感染予防と清潔保持 ① 感染予防と清潔保持 ② 健康状態の把握 ① 健康状態の把握 ② 呼吸のしくみと働き 喀痰吸引とは 喀痰吸引で用いる器具器材と清潔の保持 救急蘇生 人工呼吸器と吸引 	<ol style="list-style-type: none"> 人工呼吸器と吸引② 子どもの吸引・喀痰吸引に伴うケア 利用者や家族の気持ちと対応・感染予防 急変、事故発生時の対応と事前対策・報告・記録 消化器のしくみと働き・消化器の主な症状 経管栄養で用いる器具・器材と清潔の保持 経管栄養剤の知識 経管栄養実施上の留意点・子どもの経管栄養 経管栄養に必要なケア・利用者や家族の気持ち 経管栄養に関する感染予防・安全確認 急変時の対応と報告・記録 経管栄養の実施手順 経管栄養の実施手順 まとめ 試験 				
<p>しやう さんこうぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>さいしんかい ごふくし ようせいこうぎ 最新介護福祉士養成講座15</p> <p>いりょうてき ちゅうおうほう うしきゅうばん 「医療的ケア」 中央法規出版</p> <p>はいふ プリント配布</p>	<p>たんいにてい ほうほうおよ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひょうかきじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>ひつきけん じつぎしけん ていしゅぶつ しゅつせきようきやうじゆぎょうたいど にほん 筆記試験・実技試験・提出物・出席状況・授業態度、日本 語授業の点数などから総合評価をする。</p> <p>・ いじょうのしゅつせき、および そうごうひょうか てんいじょう ・ 2/3以上の出席、および総合評価60点以上で たんい あた 単位を与える。</p>				

授 業 概 要

<p>授業科目名 Welfare Time I</p>	<p>授業の種類 演習</p>		<p>授業担当者 川端 慶子 / 寺田 知生/小林 栄</p>																																											
<p>授業の回数 30回</p>	<p>時間数 60時間</p>	<p>配当学年 1年</p>	<p>配当時期 通年</p>																																											
<p>【授業の目的・ねらい】 学校生活における基本的なルールを理解するとともに、社会人としてのマナーを身につける。学校行事やクラスイベントを通じて人と人の交流やチームワークなど、人間的成長を図る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 イベントの企画・参加／個別面談／話し方、マナー、文章力など基礎教育を行う。また、福祉系科目において補足が必要な内容がある場合には、本授業にて講義を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 学校行事を企画、参加することで、責任感、協調性を身につけることができる。 学校生活や社会生活における基本的なマナー、文章力が身につく。</p>																																														
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0"> <tr> <td>1.</td> <td></td> <td>16.</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td rowspan="3">補足が必要な福祉系科目の講義と試験</td> <td>17.</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>18.</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>19.</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td></td> <td>20.</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td></td> <td>21. クラスイベントの企画や卒業生を送る会などのイベントの企画、運営を行う。</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など学</td> <td>22.</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>校行事やクラスイベントなど行う。</td> <td>23. 社会人としてのマナーを身につけられる研修会</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td></td> <td>24. に参加する。</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td></td> <td>25.</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td></td> <td>26.</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td></td> <td>27.</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td></td> <td>28.</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td></td> <td>29.</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td></td> <td>30. 試験</td> </tr> </table>				1.		16.	2.	補足が必要な福祉系科目の講義と試験	17.	3.	18.	4.	19.	5.		20.	6.		21. クラスイベントの企画や卒業生を送る会などのイベントの企画、運営を行う。	7.	健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など学	22.	8.	校行事やクラスイベントなど行う。	23. 社会人としてのマナーを身につけられる研修会	9.		24. に参加する。	10.		25.	11.		26.	12.		27.	13.		28.	14.		29.	15.		30. 試験
1.		16.																																												
2.	補足が必要な福祉系科目の講義と試験	17.																																												
3.		18.																																												
4.		19.																																												
5.		20.																																												
6.		21. クラスイベントの企画や卒業生を送る会などのイベントの企画、運営を行う。																																												
7.	健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など学	22.																																												
8.	校行事やクラスイベントなど行う。	23. 社会人としてのマナーを身につけられる研修会																																												
9.		24. に参加する。																																												
10.		25.																																												
11.		26.																																												
12.		27.																																												
13.		28.																																												
14.		29.																																												
15.		30. 試験																																												
<p>【使用テキスト・参考文献】</p>	<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・授業態度、行事やイベント等への取り組み姿勢、提出物の総合評価 ・3分の2以上の出席</p>																																													

授業概要

<p>じゆぎょう かもくめい 授業科目名</p> <p>にんげんかんけい 人間関係とコミュニケーションⅡ</p>	<p>じゆぎょう しゆるい 授業の種類</p> <p>えんしゆう 演習</p>		<p>じゆぎょうたんどうしや 授業担当者</p> <p>かわばた よしこ 川端 慶子</p>
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい 15回</p>	<p>じかんすう 時間数</p> <p>じかん 30時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 2年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>ぜんき 前期</p>
<p>じゆぎょう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>かいご しつ たか ひつよう きそ てきちしき りかい はたら のうりよく まな 介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を学ぶ。</p> <p>かいごじっせん ひつよう そしき うんえいかんり じんざい いくせい かつよう じんざいかんり ひつよう 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する内容である。</p> <p>じゆぎょうしゅうりょうじ たつせいか だいい どうたつもくひょう 【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>かいご しつ たか ひつよう きそ てきちしき りかい はたら のうりよく しゅうとく 介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を修得する。</p>			
<p>じゆぎょう ないよう じゆぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実践におけるチームマネジメントーヒューマンサービスとしての介護サービス 2. 介護実践におけるチームマネジメントー介護現場で求められるチームマネジメント 3. 介護実践におけるチームマネジメントー介護実践におけるチームマネジメントの取り組み 4. ケアを展開するためのチームマネジメントーケアを展開するために必要なチームとその取り組み 5. ケアを展開するためのチームマネジメントーチームでケアを展開するためのマネジメント 6. ケアを展開するためのチームマネジメントーチームの力を最大化するためのマネジメント 7. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントー介護福祉職のキャリアと求められる実践力 8. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントー介護福祉職としてのキャリアデザイン 9. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントー介護福祉職のキャリア支援・開発 10. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントー自己研鑽に必要な姿勢 11. 組織の目標達成のためのチームマネジメントー介護サービスを支える組織の構造 12. 組織の目標達成のためのチームマネジメントー介護サービスを支える組織の機能と役割 13. 組織の目標達成のためのチームマネジメントー介護サービスを支える組織の管理 14. まとめ 15. 試験 			
<p>しやう さんこうぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>さいしん かいごふくししやうせいこうざ にんげん りかい ちゆうおうほうき 『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規</p>	<p>たんいんにんてい ほうほうおよ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひょうかきじゆん 【試験やレポートの評価基準など】</p> <p>じゆぎょうたいど ていしつづつとう ふく しけん そうごうひょうかひょうか 授業態度(提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>		

授 業 概 要

<small>じゆぎょうかもく めい</small> 授業科目名 <small>ふくし</small> 福祉レクリエーションⅡ	<small>じゆぎょう しゆるい</small> 授業の種類 演習		<small>じゆぎょうたんとうしゃ</small> 授業担当者 <small>かわばた よしこ</small> 川端 慶子
<small>じゆぎょう かいすう</small> 授業の回数 <small>かい さいしゅうかい しけん</small> 15回(最終回は試験)	<small>じかん すう</small> 時間数 <small>じかん</small> 30時間	<small>はいとうがくねん</small> 配当学年 <small>ねんせい</small> 2年生	<small>はいとうじき</small> 配当時期 <small>ぜんき</small> 前期
<small>じゆぎょう もくてき</small> 【授業の目的・ねらい】 <small>ふくし りろん こんきょ もと さまざま ねんれい たいしゅうしゃ じっさい</small> 福祉レクリエーションサービスの理論と根拠に基づき、様々な年齢の対象者にあわせたレクリエーションの実際を学び、 <small>えんじょほうほう まな</small> その援助方法を学ぶ。			
<small>じゆぎょうぜんたい ないよう がいよう</small> 【授業全体の内容の概要】 <small>たいしゅうねんれい て あそ うた たいそうとう さまざま さい ぎじゆつ えんじょほうほう しゅうとく じゆうらい</small> 対象年齢に合わせた手遊び、ゲーム、歌 ダンス、体操等、様々なレク財の技術、その援助方法を習得する。従来のレク <small>さい たいしゅうしゃ あ ぎじゆつ ぎょうじ さくせい うんえい ぎじゆつ しゅうとく</small> 財を対象者に合わせてアレンジする技術を学ぶ。行事にあわせたプログラム作成、運営する技術を習得する。			
<small>じゆぎょうしゅうりょうりき たつせいかだい とうたつ もくひよう</small> 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 <small>さまさま さい ぎょうじ く こ きかく うんえい</small> 様々なレク財を対象者にあわせてアレンジし行事のプログラムに組み込み企画し、運営できるようになる。			
<small>じゆぎょう ないよう じゆぎょうほうほう</small> 【授業のテーマ・内容・授業方法】 <small>ぎょうじ きかく</small> 1. 行事にあわせたプログラムの企画① <small>ぎょうじ きかく</small> 2. 行事にあわせたプログラムの企画② 3. コミュニケーションワークショップ① 4. コミュニケーションワークショップ② <small>たいしゅうしゃ てあそ</small> 5. 対象者にあわせた手遊び① <small>てあそ</small> 6. 対象者にあわせた手遊び② <small>ぎょうじ きかく</small> 7. 行事にあわせたプログラムの企画① 8. 行事にあわせたプログラムの企画② <small>たいしゅうしゃ たいそう</small> 9. 対象者にあわせたオノマトペ体操① <small>たいしゅうしゃ たいそう</small> 10. 対象者にあわせたオノマトペ体操② <small>たいしゅうしゃ</small> 11. 対象者にあわせたゲーム① <small>たいしゅうしゃ</small> 12. 対象者にあわせたゲーム② <small>はつびよう</small> 13. 発表① 14. 発表② <small>しけん</small> 15. 試験			
<small>じれい わ ふくし</small> 事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーションサービス <small>じっし</small> 実施マニュアル <small>たの ついきゅう さき りろん しえん ほうほう</small> 1. 楽しさの追求を支える理論と支援の方法 <small>たの ついきゅう さき きかく じゆ</small> 2. 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 <small>たの ついきゅう さき かいにゆう ぎじゆつ</small> 3. 楽しさの追求を支えるための介入技術 公益財団法人 日本レクリエーション協会		<small>しけん ひょうか きじゆん</small> (試験やレポートの評価基準など) <small>じゆこう たいど じつぎ しけん</small> 受講態度20%・実技試験30% <small>しけん</small> 試験50% <small>じょうき りょういき はいぶんわりあい てんまんてん ひょうか</small> 上記の3領域の配分割合のより100点満点で評価し60点 以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業科目名 かいご かにてい 介護過程 II	授業の種類 じゆぎょう しゆい 講義		授業担当者 みずしま みわ 水嶋 美和
授業の回数 かい さいしゅうかい しけん 30 回(最終回は試験)	時間数 じかん すう 60 時間	配当学年 はいとうがくねん ねんせい 2年生	配当時期 はいとうじき ぜんき 前期

【授業の目的・ねらい】

介護過程 I II を通し、介護過程の意義を理解し、尊厳の保持、自立支援に沿ったアセスメントおよび介護計画の立案・実施・評価の一連の思考過程を理解する。介護過程 I において、習得した知識を活かし、さまざまな生活場面における事例に基づき、介護過程を展開できる能力を養う。

チームで利用者を支えることや多職種連携の必要性を理解し、多角的に捉える視点を養う。

【授業全体の内容の概要】

実習での介護過程を展開に備え、演習を繰り返す。

テキストを用い、介護過程の計画立案、実施、評価の目的、記録、多職種協働の重要性について講義する。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

介護過程の理論と介護実習を関連づけながら、介護過程を展開できる。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 介護過程 I の復習 事例に基づきアセスメントを行う 事例に基づきアセスメントを行う 事例に基づきアセスメントを行う 事例に基づきアセスメントを行う 事例に基づきアセスメントを行う 事例に基づきアセスメントを行う 事例に基づきアセスメントを行う 長期目標、短期目標 目標設定の留意点 支援の内容について 支援の内容について 実施と記録 カンファレンス モニタリング・評価 | <ol style="list-style-type: none"> 介護過程とチームアプローチ 介護過程とチームアプローチ ケアマネジメントと介護過程 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 利用者に応じた介護過程の展開 試験 |
|---|---|

【使用テキスト・参考文献】
 たの まな かいごかにてい じちようしゃ
 楽しく学ぶ 介護過程 (時潮社)
 さまざまな じれい つか
 様々な事例を使う

【単位認定の方法及び基準】
(試験やレポートの評価基準など)
 いじよう しゆっせき そうごう ひようか てんいじよう たんい
 ・2/3以上の出席および総合評価60点以上で 単位
 あた
 を与える。
 ひつきしけん ていしゆつづつ じゆぎょうたいど そうごうひようか
 ・筆記試験・提出物・授業態度の総合評価とする。

授 業 概 要

授業科目名 はったつ ろうか りかい 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 こうぎ 講義	授業担当者 こばやし さかえ 小林 栄
授業の回数 かい さいしゅうかい しけん 15回(最終回は試験)	時間数 じかん 30時間	配当学年 はいとぶくねん ねんせい 2年生
配当時期 はいとうじ き ぜんき 前期		

【授業の目的・ねらい】

ひと せいちょう はったつ かに りかい ろうねんき しんしん きのうてき へんか とくちょう かん きそてき ちしき まな
 人の成長・発達する過程を理解し、老年期における心身や機能的変化および特徴に関しての基礎的な知識を学ぶこと
 もくてき
 を目的とする。

【授業全体の内容の概要】

ろうねんき はったつ かい ころれいしや おお しょうじょえつべい とくちょう ろうか こうれいしや せいかつ えいきょう しんたいてき せいしんてき しゃかいてきく
 老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的・精神的・社会的側
 めん たら ろうか とまなへんか とくちょう たいおう ひつよう ちしき
 面から捉え、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識について概説する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

かれい とまな せいじゆく とくちょう うしな きのう とくちょう はったつ かい りかい
 加齢に伴う成熟の特徴と失われていく機能の特徴、発達課題を理解する。また、高齢者に多い疾病や老化に伴う機能
 低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、支援技術の根拠となる知識を身に付ける。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

1. こうれいしや おお びょうき こっかくけい きんけい
 高齢者に多い病気① 骨格系・筋系
2. こうれいしや おお びょうき のう しんけいけい
 高齢者に多い病気② 脳・神経系
3. こうれいしや おお びょうき ひふ かんかくきけい
 高齢者に多い病気③ 皮膚・感覚器系
4. こうれいしや おお びょうき じゆんかんきけい
 高齢者に多い病気④ 循環器系
5. こうれいしや おお びょうき こきゅうきけい
 高齢者に多い病気⑤ 呼吸器系
6. こうれいしや おお びょうき しょうかきけい
 高齢者に多い病気⑥ 消化器系
7. こうれいしや おお びょうき じん ひにょうきけい
 高齢者に多い病気⑦ 腎・泌尿器系
8. こうれいしや おお びょうき ないぶんびつ たいしゃけい
 高齢者に多い病気⑧ 内分泌・代謝系
9. こうれいしや おお びょうき は こうくうしつかん
 高齢者に多い病気⑨ 歯・口腔疾患
10. こうれいしや おお びょうき あくせいしんせいぶつ
 高齢者に多い病気⑩ 悪性新生物
11. こうれいしや おお びょうき かんせんしやうせいしんしつかん
 高齢者に多い病気⑪ 感染症・精神疾患
12. ほけん いりよう しょく れんけい
 保健医療職との連携①
13. ほけん いりよう しょく れんけい
 保健医療職との連携②
14. まとめ
15. 試験

【使用テキスト・参考文献】

さいしん かいご ふくしし ようせいこうざ
 最新・介護福祉士養成講座11・14

はったつ ろうか りかい
 「発達と老化の理解」「こころとからだのしくみ」

ちゅうおうほうき しゅつぱん
 中央法規出版

自作プリント

【単位認定の方法及び基準】

しけん ひょうか きじゆん
(試験やレポートの評価基準など)

ひつき しけん ていしゅぶつ しゅつせきやうきやう じゆぎやうたいど にほんごじゆぎやう
 ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度、日本語授業の
 てんすう そうごう ひょうか
 点数などの総合評価とする。

いじよう しゅつせき そうごう ひょうか てんいじよう
 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で

たんい あた
 単位を与える。

授 業 概 要

じゆぎよか もくめい 授業科目名 いりようてき 医療的ケア II	じゆぎよう しゆるい 授業の種類 こうぎ えんしゆう 講義 演習	じゆぎよたんとうしゃ 授業担当者 ひとみこばやし さかえ マイヤー瞳/小林 栄
じゆぎよう かいすう 授業の回数 かい さいしゆうかい しけん 15 回(最終回は試験)	じかんすう 時間数 じかん 30 時間	はいとうがくねん 配当学年 ねんせい 2年生
はいとうじ き 配当時期 ぜんき 前期		

【授業の目的・ねらい】

いりようてき ケア ひつよう ひと あんぜん あんらく せいかつ ささ してん いりようしよく れんけい もと いりようてき
 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという視点から、医療職との連携の下で医療的ケアを
 あんぜん てきせつ じっし ひつよう ちしき ぎじゆつ しゆうとく
 安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

【授業全体の内容の概要】

こじん そんげん いりよう りんり もと こんきよ かくたんきゆういん けいかんえいよう じっし き そちしき じっし
 個人の尊厳、医療の倫理に基づき、根拠をもって喀痰吸引、経管栄養が実施できるための基礎知識、実施
 ていじゆん りかい ないよう えんしゆう あんぜん かくたんきゆういぬう じっし かくじつ しゆぎ しゆうとく ないよう
 手順が理解できる内容とする。演習では安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得する内容と
 する。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

こじん そんげん いりよう りんり もと あんぜん かくたんきゆういん けいかんえいよう しゆぎ りかい かくじつ じっし
 個人の尊厳、医療の倫理に基づいた、安全な喀痰吸引、経管栄養の手技を理解し、確実に実施すること
 でき
 が出来る。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

1. けいかんえいよう じっし ていじゆん りゆういてん
経管栄養の実施の手順と留意点
2. けいかんえいよう じっし ていじゆん りゆういてん
経管栄養の実施の手順と留意点
3. かくたんきゆういんのじっしのでていじゆんとりゆういてん 1
喀痰吸引の実施の手順と留意点 ①
4. かくたんきゆういんのじっしのでていじゆんとりゆういてん 2
喀痰吸引の実施の手順と留意点 ②
5. かくたんきゆういんのじっしのでていじゆんとりゆういてん 3
喀痰吸引の実施の手順と留意点 ③
6. かくたんきゆういんのじっしのでていじゆんとりゆういてん 4
喀痰吸引の実施の手順と留意点 ④
7. かくたんきゆういんのじっしのでていじゆんとりゆういてん 5
喀痰吸引の実施の手順と留意点 ⑤
8. まとめ ひつきしけん
まとめ 筆記試験
9. かくたんきゆういん きほんけんしゆう(えんしゆう) 1
喀痰吸引 基本研修(演習)①
10. かくたんきゆういん きほんけんしゆう(えんしゆう) 2
喀痰吸引 基本研修(演習)②
11. かくたんきゆういん きほんけんしゆう(えんしゆう) 3
喀痰吸引 基本研修(演習)③
12. かくたんきゆういん きほんけんしゆう(えんしゆう) 4
喀痰吸引 基本研修(演習)④
13. けいかんえいよう きほんけんしゆう えんしゆう
経管栄養 基本研修(演習)①
14. けいかんえいよう きほんけんしゆう えんしゆう
経管栄養 基本研修(演習)②
15. しけん
試験

【使用テキスト・参考文献】

さいしんかい いごふくし ようせいこうざ
 最新介護福祉士養成講座 15
 いりようてき ちゆうおうほうきしゆつぱん だい はん
 「医療的ケア」 中央法規出版 第2版

プリント

【単位認定の方法及び基準】

たんいにてい ほうほうおよ きじゆん
【試験やレポートの評価基準など】
 しけん ひょうかきじゆん
 ひつきしけん じつぎしけん ていしゆぶつ しゆつせきようきようじゆぎよふた いど にほん
 ・筆記試験・実技試験・提出物・出席状況・授業態度、日本
 ごじゆぎよう てんすう そうごうひょうか
 語授業の点数などから総合評価をする。
 ・ いじょうのしゆつせき、および そうごうひょうか てんいじょう
 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で
 たんい あた
 単位を与える。

授 業 概 要

<p>じゆぎょうか もくめい 授業科目名</p> <p>こころとからだのしくみⅢ</p>	<p>じゆぎょう しゆるい 授業の種類</p> <p>講義</p>		<p>じゆぎょうたんとうしゃ 授業担当者</p> <p>マイヤー ひとみ 瞳</p>
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゅうかい しけん 15回(最終回は試験)</p>	<p>じかんすう 時間数</p> <p>じかん 30時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 2年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>こうき 後期</p>

【授業の目的・ねらい】

こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識を習得することを目的とする。

【授業全体の内容の概要】

「こころとからだのしくみⅠ、Ⅱ」「老化の理解Ⅰ、Ⅱ」「障害の理解」の知識の定着と理解を深め、どのような障害や病気があっても、その人が望む環境の中で「活動」「参加」し続けられるような支援について概説する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

介護の視点から、いつも異なる利用者の生活状態に早めに気づくことのできる医学的知識と、多職種との連携の必要性を理解できる。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

1. こころとからだ こころのしくみ ①
2. こころとからだ こころのしくみ ②
3. こころとからだ からだのしくみ ①
4. こころとからだ からだのしくみ ②
5. こころとからだ からだのしくみ ③
6. こころとからだ からだのしくみ ④
7. こころとからだ 身じたく・移動に関するしくみ
8. こころとからだ 食事・入浴に関するしくみ
9. こころとからだ 排泄・睡眠に関するしくみ
10. こころとからだ 排泄・睡眠に関するしくみ
11. こころとからだ 死に行く人に関するしくみ
12. こころとからだ 死に行く人に関するしくみ
13. こころのしくみまとめ
14. からだのしくみまとめ
15. 試験

【使用テキスト・参考文献】

最新・介護福祉士養成講座 11・14

「こころとからだのしくみ」

中央法規出版

「からだのじてん」なるみどうしゅつぱん じさくぶりんと
「からだの事典」成美堂出版 自作プリント

【単位認定の方法及び基準】

(試験やレポートの評価基準など)

筆記試験・提出物・出席状況・授業態度、などから総合評価を
する。
・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で
単位を与える。

授 業 概 要

<p>じゆぎやう かもくめい 授業科目名</p> <p>じれいけんとう 事例検討</p>	<p>じゆぎやう しゆるい 授業の種類</p> <p>えんしゆう 演習</p>		<p>じゆぎやうたんとうしや 授業担当者</p> <p>かいごせんじん 介護専任</p>
<p>じゆぎやう かいすう 授業の回数</p> <p>かい 15回</p>	<p>じかんすう 時間数</p> <p>じかん 30時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 2年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>こうき 後期</p>
<p>じゆぎやう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>じっせんほうこく い ぎ もくてき りかい みずか じっしゆう と く ほうこく ちしき ぎじゆつ まな じっせんほうこくかい 実践報告の意義と目的を理解し、自らの実習での取り組みをまとめ報告のための知識や技術を学び。また、実践報告会とお じっせん いしき こうじよう はか を通して実践にかかわる意識の向上を図る。</p> <p>じゆぎやうぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>じっせんほうこく い ぎ もくてき まな みずか じっしゆう と く じっせんほうこく がくがい じっせんほうこくかい さんか 実践報告の意義や目的を学び、自らの実習での取り組みを実践報告にまとめていく。また、学外の実践報告会に参加し、報告とその場でのディスカッションを聞きながら自身の考えを深めていく。</p> <p>じゆぎやうしゅうりょうじ たっせいかい だい どうたつもくひよう 【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>じっせんほうこく い ぎ もくてき りかい ・実践報告の意義や目的について理解する。</p> <p>じっせんほうこく きそてき ちしき ぎじゆつ りかい ・実践報告のための基礎的な知識や技術について理解する。</p> <p>しゃかいふくし じっせん じしん かんが ふか ・社会福祉の実践において自身の考えを深める。</p>			
<p>じゆぎやう ないよう じゆぎやうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>じっせんほうこく 1. 実践報告とは</p> <p>じっせんほうこく い ぎ もくてき 2. 実践報告の意義と目的①</p> <p>じっせんほうこく い ぎ もくてき 3. 実践報告の意義と目的②</p> <p>じっせんほうこく ほうほう 4. 実践報告の方法</p> <p>5. }</p> <p>6. }</p> <p>7. }</p> <p>8. }</p> <p>9. } かいご じっしゆう じっせん じっせんほうこく ・介護実習での実践を実践報告にまとめる。</p> <p>10. }</p> <p>11. }</p> <p>12. }</p> <p>13. }</p> <p>14. }</p> <p>15. 試験</p>			
<p>しやう さんこうぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>てきぎ はいふ 適宜、プリントを配布する。</p>		<p>たんいにてい ほうほうおよ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひょうかきじゆん 【試験やレポートの評価基準など】</p> <p>じゆぎやう たい と く しせい ていしゆづとう ないよう ふ 授業に対する取り組み姿勢や提出物等の内容を踏まえた そうごうひようか 総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

じゅぎょうかめい 授業科目名 けんこうかがく 健康科学	じゅぎょう しゅるい 授業の種類 こうぎ 講義		じゅぎょうたんとうしゃ 授業担当者 すぎた みえい 杉田 美瑛
じゅぎょう かいすう 授業の回数 かい 8回	じかん すう 時間数 じかん 15時間	はいとうがくねん 配当学年 ねんせい 2年生	はいとうじき 配当時期 こうき 後期
<p> 【授業の目的・ねらい】 じこ けんこう およ ようじ こうれいしゃ けんこう しどう もくてき 自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的とする。 </p> <p> 【授業全体の内容の概要】 けんこうかがく かがくてき けんこう まな 健康科学のテキストにより科学的に健康づくりを学ぶ。 </p> <p> 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 じこ たいりよくぞうしん けんこうかんり しどうしゃ じこ しゅうい ひと うんどうしよほう かんが うん 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。運 どう きそりろん うんどうしよほう する けんこう せいかつ おくる 動の基礎理論および運動処方を知ることにより、健康な生活を送ることができるようになる。 </p> <p> 【授業のテーマ・内容・授業方法】 けんこう せいかつせつけい 1. 健康な生活設計 みじか びょうき しょくちゅうどく 2. 身近な病気① ～ 食中毒 ～ みじか びょうき 3. 身近な病気② ～ がん ～ みじか びょうき やくがい 4. 身近な病気③ ～ 薬害 ～ みじか びょうき 5. 身近な病気④ ～エイズ～ けんこう じっせん よぼう 6. 健康チェックの実践とフレイル予防 けんこう うんどう 7. 健康と運動 しけん 8. 試験 </p>			
しょう さんこう ぶんけん 【使用テキスト・参考文献】 じさくしりょう 自作資料		たんい にんてい ほうほうおよ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】 しけん ひょうか きじゆん (試験やレポートの評価基準など) ひつき しけん けっか ほんてい ひょうか 筆記試験の結果により判定し評価する。	

授 業 概 要

<p>じゆぎょうかもく めい 授業科目名</p> <p>るん リハビリテーション論</p>	<p>じゆぎょう しゆるい 授業の種類</p> <p>えんしゅう 演習</p>		<p>じゆぎょうたんとうしゃ 授業担当者</p> <p>こばやし よしふみ 小林 義文</p>
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゅうかい しけん 15回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数</p> <p>じかん 30時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 2年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>こうき 後期</p>

【授業の目的・ねらい】

- ・リハビリテーションの基礎知識を履修すること。
- ・介護とリハビリテーションの融合を図り、自立支援に向けた介護を実践できる知識や技術を習得する。

【授業全体の内容の概要】

- ・リハビリテーション概論 ・運動学 ・運動療法 ・疾患の特性とリハビリテーションについて
- ・ボディメカニクスについて ・リハビリテーション介護

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

- ・介護に必要な身体面を中心とした、医学的知識。
- ・介護が必要になる要因となる疾患に即した、介護技術の習得。
- ・自立支援に向けた介護手法の習得。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

1～2. リハビリテーションの理論と組織

- ・リハビリテーションの考え方や歴史、ノーマライゼーション、障害を持つ人々の自立
- ・変わる地域社会の理解、チームアプローチ、かわる領域と専門職種を理解する
- ・ICFと自立支援

3～5. 移乗・移乗に関する基本概念と福祉用具

- ・意味と目的
- ・多職種連携
- ・福祉用具の種類と適応、アセスメント

6～8. 障害種別リハビリテーション

- ・肢体不自由、内部障害、重度心身障害に分けたリハビリテーションの考え方
- ・難病や重度重複障害など進行性疾患に対するリハビリテーション

9～10. 発達と老化からみたリハビリテーション

- ・発達途上の子どもたちへのリハビリテーション
- ・高齢者の症状・疾患とリハビリテーション
- ・保健医療との連携

11～14. リハビリテーション介護実技

- ・正しい姿勢と体位変換、移乗動作と車いす、歩行・移動補助具、これまでの振り返りなど

15 最終講 試験

【使用テキスト・参考文献】

最新 介護福祉士養成講座1-15

【単位認定の方法及び基準】

(試験やレポートの採点基準など)

- ・記述試験と出席率

授 業 概 要

<p>じゆぎょうかもく めい 授業科目名</p> <p>ふくし 福祉レクリエーションⅢ</p>	<p>じゆぎょう しゆるい 授業の種類</p> <p>えんしゆう 演習</p>		<p>じゆぎょうたんどうしゃ 授業担当者</p> <p>てらだともき かわばたよしこ 寺田知生・川端慶子</p>
<p>じゆぎょう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゆうかい しけん 15回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数</p> <p>じかん 30時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねんせい 2年生</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>こうき 後期</p>
<p>じゆぎょう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>そうごうてき ふくし かいにゆきじゆつ こじん かいにゆほうほう い かいにゆほうほう たいしよしや 総合的に福祉レクリエーションの介入技術（個人への介入方法・グループダイナミクスを活かした介入方法）や対象者 げんば かつどう ほうほう と現場にあわせたレクリエーション活動のアレンジ方法を学ぶ。</p> <p>じゆぎょうぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>たいしよしゃ しえんしゃ こうりゆう い かつどう てんかい こじん かいにゆほうほう 対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の展開について個人への介入方法・グループダイナミクスを活 かいにゆほうほうなど、えんしゆうけいしき まな かした介入方法等、演習形式で学ぶ。</p> <p>じゆぎょうしゅうりよ たいせいかだい どうたつ もくひよう 【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>さくせい たい さまざま かいにゆきじゆつ つか じぎょうしよとう じっせん 作成したプログラムに対して、様々な介入技術を使い事業所等で実践する。</p>			
<p>じゆぎょう ないよう じゆぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 福祉レクリエーション支援の重要なポイントの確認① 2 福祉レクリエーション支援の重要なポイントの確認② 3 レクプログラムプランニング演習①-集団援助プログラム- 4 レクプログラムプランニング演習②-集団援助プログラム- 5 障害者スポーツ① 6 障害者スポーツ② 7 個人へのレクリエーション支援の構造と展開① 8 個人へのレクリエーション支援の構造と展開② 9 レクプログラムプランニング演習①-個人援助プログラム- 10 レクプログラムプランニング演習②-集団援助プログラム- 11 ニューススポーツ① 12 ニューススポーツ② 13 コミュニケーションワークショップ① 14 コミュニケーションワークショップ② 15 試験 			
<p>しよう さんこう ぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>じれい わ ふくし 事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーションサービス じっし 実施マニュアル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しさの追求を支える理論と支援の方法 2. 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 3. 楽しさの追求を支えるための介入技術 <p>公益財団法人 日本レクリエーション協会</p>		<p>たんい にんてい ほうほうおよ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひょうかきじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>じゆこうたいど じつぎ しけん 受講態度20%・実技試験30%</p> <p>ひつき しけん 筆記試験50%</p> <p>じようき りよういき はいぶんわりあい てんまんてん ひょうか 上記の3領域の配分割合のより100点満点で評価し</p> <p>てんいじよ ころかく 60点以上を合格とする。</p>	

じゅ　ぎょう　がい　よう
授　業　概　要

<p style="text-align: center;">じゅぎょう　かもくめい 授業科目名</p> <p style="text-align: center;">かい　ごか　てい 介護過程Ⅲ</p>	<p style="text-align: center;">じゅぎょう　しゅるい 授業の種類</p> <p style="text-align: center;">こうぎ 講義</p>		<p style="text-align: center;">じゅぎょうたんどうしゃ 授業担当者</p> <p style="text-align: center;">みずしま　み　わ 水嶋　美和</p>
<p style="text-align: center;">じゅぎょう　かいすう 授業の回数</p> <p style="text-align: center;">かい 15回</p>	<p style="text-align: center;">じ　かんすう 時間数</p> <p style="text-align: center;">じ　かん 30時間</p>	<p style="text-align: center;">はいとうがくねん 配当学年</p> <p style="text-align: center;">ねんせい 2年生</p>	<p style="text-align: center;">はいとう　じ　き 配当時期</p> <p style="text-align: center;">こうぎ 後期</p>
<p>じゅぎょう　もくてき 【授業の目的・ねらい】 かい　ごか　てい　ふ　かい　ごか　てい　じっせん　ひつよう　ちしき　ふか 介護過程Ⅰ・Ⅱを踏まえ介護過程の実践に必要な知識を深める。</p> <p>じゅぎょうぜんたい　ないよう　がいよう 【授業全体の内容の概要】 かい　ごか　てい　い　ぎ　かい　ごか　てい　てんかい　かい　ごか　てい　じっせんてきてんかい　かい　ごか　てい 「介護過程の意義」「介護過程の展開」「介護過程の実践的展開」「介護過程のチームアプローチ」について、テキストをもちまな用いて学ぶ。</p> <p>じゅぎょうしゅうりょう　たっせい　か　だ　い　とうたつ　もく　ひ　よう 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 かい　ごか　てい　ちしき　ふか　かい　ごか　てい　じっせん　ひつよう　ちしき　み 介護過程の知識を深め、介護過程の実践に必要な知識を身につける。</p>			
<p>じゅぎょう　ないよう　じゅぎょうほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>かい　ごか　てい　い　ぎ 1. 介護過程の意義</p> <p>かい　ごか　てい　てんかい　じょうほうしゅうしゅう 2. 介護過程の展開—情報収集とアセスメント</p> <p>かい　ごか　てい　てんかい　じょうほうしゅうしゅう　ほうほう 3. 介護過程の展開—情報収集の方法</p> <p>かい　ごか　てい　てんかい　じょうほう　かいしやく　かんれん　とうごうか 4. 介護過程の展開—情報の解釈・関連づけ・統合化</p> <p>かい　ごか　てい　てんかい　か　だ　い　めい　かく　か 5. 介護過程の展開—課題の明確化</p> <p>かい　ごか　てい　てんかい　かい　ごか　てい 6. 介護過程の展開—ICFと介護過程</p> <p>かい　ごか　てい　てんかい　か　だ　い　もく　ひ　よう 7. 介護過程の展開—課題、目標</p> <p>かい　ごか　てい　てんかい　けい　かく 8. 介護過程の展開—計画</p> <p>かい　ごか　てい　てんかい　じっし 9. 介護過程の展開—実施</p> <p>かい　ごか　てい　てんかい　ひょうか 10. 介護過程の展開—評価</p> <p>かい　ごか　てい　じっせんてきてんかい 11. 介護過程の実践的展開①</p> <p>かい　ごか　てい　じっせんてきてんかい 12. 介護過程の実践的展開②</p> <p>かい　ごか　てい 13. 介護過程とチームアプローチ①</p> <p>かい　ごか　てい 14. 介護過程とチームアプローチ②</p> <p>し　けん 15. 試験</p>			
<p>しょう　さんこうぶんけん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p style="text-align: center;">じょうげ 『介護福祉士国家試験受験　ワークブック2027上下』中央法規</p>		<p>たん　い　にん　てい　ほうほう　お　よ　き　じ　ゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>し　けん　ひょうか　き　じ　ゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>じゅぎょう　い　ど　てい　し　ゆ　つ　ぶ　つ　と　う　ふ　く　し　けん　そうごう　ひょう　か 授業態度(提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

じゆぎょう かもくめい 授業科目名 しゃかい りかい 社会の理解	じゆぎょう しゆらい 授業の種類 こうぎ 講義		じゆぎょうたんとしや 授業担当者 こばやし さかえ 小林 栄
じゆぎょう かいすう 授業の回数 かい 30回	じかんすう 時間数 じかん 60時間	はいとうがくねん 配当学年 ねんせい 2年生	はいとうじ き 配当時期 つうねん 通年

【授業の目的・ねらい】

- ・個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を学び、生活と社会の関係性を体系的に捉える学び。
- ・対象者の生活の場としての地域について、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を学ぶ。
- ・日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて学ぶ。

【授業全体の内容の概要】

- ・「個人」「家族」「地域」「社会」のしくみと、地域における生活の構造について学ぶ、生活と社会の関わりや「自助」「互助」「共助」「公助」の展開について理解する内容。

- ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する内容。
- ・社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題を捉える内容。
- ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

- ・個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。
- ・対象者の生活の場としての地域について、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を修得する。
- ・日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。

【授業のテーマ・内容・授業方法】

- | | |
|--|--|
| 1. 社会と生活のしくみー生活を幅広くとらえる
2. 社会と生活のしくみー生活の基本機能
3. 社会と生活のしくみーライフスタイルの変化
4. 社会と生活のしくみー家族の機能と役割
5. 社会と生活のしくみー社会・組織の機能と役割
6. 社会と生活のしくみー地域・地域社会
7. 社会と生活のしくみー地域社会における生活支援
8. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策①
9. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策②
10. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策③
11. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策④
12. 社会保障の基本的な考え方①
13. 社会保障の基本的な考え方②
14. 日本の社会保障制度の発達①
15. 日本の社会保障制度の発達② | 16. 日本の社会保障制度のしくみ①
17. 日本の社会保障制度のしくみ②
18. 日本の社会保障制度のしくみ③
19. 日本の社会保障制度のしくみ④
20. 現代社会と社会保障制度①
21. 現代社会と社会保障制度②
22. 個人の権利を守る制度・施策①
23. 個人の権利を守る制度・施策②
24. 保健医療に関する制度・施策①
25. 保健医療に関する制度・施策②
26. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策①
27. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策②
28. 地域生活を支援する制度・施策①
29. 地域生活を支援する制度・施策②
30. 試験 |
|--|--|

【使用テキスト・参考文献】

『最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解』中央法規

【単位認定の方法及び基準】

(試験やレポートの評価基準など)
 授業態度(提出物等を含む)と試験の総合評価とする。

授業概要

<p>じゆぎよかもく めい 授業科目名</p> <p>せいかつえん ぎじゆつ 生活支援技術Ⅱ</p>	<p>じゆぎよう しゆるい 授業の種類</p> <p>えんしゆう 演習</p>		<p>じゆぎよたんとうしや 授業担当者</p> <p>てらだ ともき 寺田 知生</p>																														
<p>じゆぎよう かいすう 授業の回数</p> <p>かい さいしゆうかい しけん 30回(最終回は試験)</p>	<p>じかん すう 時間数</p> <p>じかん 60 時間</p>	<p>はいとうがくねん 配当学年</p> <p>ねん 2年</p>	<p>はいとうじき 配当時期</p> <p>つう ねん 通 年</p>																														
<p>じゆぎよう もくてき 【授業の目的・ねらい】</p> <p>利用者<small>せいび</small>と住まい<small>かいご</small>の関係性や環境整備<small>きよじゆうかんきよう</small>の重要性<small>ちしき</small>を理解する。また介護サービス<small>み</small>における居住環境<small>ちしき</small>の知識を身につける。</p> <p>利用者の健康的、社会的な生活を営むうえで重要な衣・住<small>い じゆう</small>について理解する。</p> <p>しゆうまつき たずさ もの きほん しせい しえん ちしき ぎじゆつ み 終末期に携わる者としての基本姿勢および、支援の知識・技術を身につける。</p> <p>じゆぎよぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】</p> <p>ここ く えんじよ ちしき もち せつめい 個々の暮らしを援助する知識について、テキストを用い説明する。</p> <p>ここ じよたい おう かいご ぎじゆつ ていきよう えんしゆう しどう 個々の状態に応じた介護の技術を提供できるよう演習にて指導する。</p> <p>じゆぎよえゆうりよ たいせいでい とうたつ もくひよう 【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>せんもんしよく じかく も てきせつ あんぜん えんじよ ぎじゆつ ちしき しゆうとく 専門職としての自覚を持ち、適切で安全に援助できる技術や知識を習得する。</p>																																	
<p>じゆぎよう ないよう じゆぎよほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 生活支援とは</td> <td>16. 実技 状況に応じた介助</td> </tr> <tr> <td>2. 生活支援と福祉用具</td> <td>17. 実技 状況に応じた介助</td> </tr> <tr> <td>3. 居住環境の意義と目的</td> <td>18. 福祉用具見学</td> </tr> <tr> <td>4. 実技 状況に応じた介助</td> <td>19. 福祉用具見学</td> </tr> <tr> <td>5. 実技 状況に応じた介助</td> <td>20. 実技 状況に応じた介助</td> </tr> <tr> <td>6. 施設における安全で心地よい生活の場</td> <td>21. 実技 状況に応じた介助</td> </tr> <tr> <td>7. 安心で快適な生活の場づくり</td> <td>22. 実技 状況に応じた介助</td> </tr> <tr> <td>8. 睡眠の介護</td> <td>23. 家事の介護</td> </tr> <tr> <td>9. 実技 状況に応じた介助</td> <td>24. 家庭生活の理解</td> </tr> <tr> <td>10. 実技 状況に応じた介助</td> <td>25. 家庭生活の理解</td> </tr> <tr> <td>11. 終末期の介護</td> <td>26. 演習(裁縫、手縫い)</td> </tr> <tr> <td>12. 緊急時の介護</td> <td>27. 演習(裁縫、手縫い)</td> </tr> <tr> <td>13. 実技 状況に応じた介助</td> <td>28. 演習(裁縫、手縫い)</td> </tr> <tr> <td>14. 実技 状況に応じた介助</td> <td>29. まとめ</td> </tr> <tr> <td>15. 実技試験</td> <td>30. 試験</td> </tr> </table>				1. 生活支援とは	16. 実技 状況に応じた介助	2. 生活支援と福祉用具	17. 実技 状況に応じた介助	3. 居住環境の意義と目的	18. 福祉用具見学	4. 実技 状況に応じた介助	19. 福祉用具見学	5. 実技 状況に応じた介助	20. 実技 状況に応じた介助	6. 施設における安全で心地よい生活の場	21. 実技 状況に応じた介助	7. 安心で快適な生活の場づくり	22. 実技 状況に応じた介助	8. 睡眠の介護	23. 家事の介護	9. 実技 状況に応じた介助	24. 家庭生活の理解	10. 実技 状況に応じた介助	25. 家庭生活の理解	11. 終末期の介護	26. 演習(裁縫、手縫い)	12. 緊急時の介護	27. 演習(裁縫、手縫い)	13. 実技 状況に応じた介助	28. 演習(裁縫、手縫い)	14. 実技 状況に応じた介助	29. まとめ	15. 実技試験	30. 試験
1. 生活支援とは	16. 実技 状況に応じた介助																																
2. 生活支援と福祉用具	17. 実技 状況に応じた介助																																
3. 居住環境の意義と目的	18. 福祉用具見学																																
4. 実技 状況に応じた介助	19. 福祉用具見学																																
5. 実技 状況に応じた介助	20. 実技 状況に応じた介助																																
6. 施設における安全で心地よい生活の場	21. 実技 状況に応じた介助																																
7. 安心で快適な生活の場づくり	22. 実技 状況に応じた介助																																
8. 睡眠の介護	23. 家事の介護																																
9. 実技 状況に応じた介助	24. 家庭生活の理解																																
10. 実技 状況に応じた介助	25. 家庭生活の理解																																
11. 終末期の介護	26. 演習(裁縫、手縫い)																																
12. 緊急時の介護	27. 演習(裁縫、手縫い)																																
13. 実技 状況に応じた介助	28. 演習(裁縫、手縫い)																																
14. 実技 状況に応じた介助	29. まとめ																																
15. 実技試験	30. 試験																																
<p>しゆう さんこう ぶんげん 【使用テキスト・参考文献】</p> <p>さいしんかいご ふくし ぜんしよ だい せいかつえん ぎじゆつ だい ぼん 最新介護福祉全書 第6「生活支援技術Ⅰ」(第2版)</p> <p>さいしんかいごふくしぜんしよ せいかつしえんぎじゆつ 最新介護福祉全書 第7巻「生活支援技術Ⅱ」(第2版)</p>	<p>たんい にんてい ほうほう およ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】</p> <p>しけん ひょうか きじゆん (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>いじよう しゆつせき ・2/3以上の出席。</p> <p>ひつき しけん じつぎ じつぎ しけ ・筆記試験については60点以上 実技については実技試験にて基準を満たすこと</p> <p>じようき そうごう ひょうか たんい にんてい 上記の総合評価によって単位を認定する。</p>																																

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
せいかつしえんぎじゆつ3 生活支援技術Ⅲ	えんしゆう 演習		さとう まりこ 佐藤 真理子		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30回(最終回は試験)	じかん 60時間	ねん 2年	つうねん 通年		
<p>じゆぎよう もくてき 【授業の目的・ねらい】 しょうがいにおいて、じょうたい ひと じりつ・じりつ そんちよう せんざいのうりよく ひきだし みまもる ふくめた てきせつ かいごじゆ 障害に応じて、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用い つ もちいて、あんぜんにえんじよできるぎじゆつやちしきについてしゆうとくするがくしゆうとする。 て、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>じゆぎようぜんたい ないよう がいよう 【授業全体の内容の概要】 しょうがい りかい せいかつ ささえる きほんかいごじゆつ ちゆうしん いぎ もくてき りかい じゆうてん しどう おこなう。またえんしゆうでは一 それぞれの障害の理解と生活を支えるための基本介護技術を中心に、意義や目的の理解に重点をおいた指導を行う。また演習で るぶれい、ぐるーぶわーくなどをとおしてりかい りよく、しこうりよく、かんさつりよくをふかめる。 はロールプレイ、グループワークなどを通して理解力、思考力、観察力を深める。</p> <p>じゆぎようしゆりようじ たっせいいかだい どうたつもくひよう 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 しょうがい ひと せいかつ りかい りようしや せいかつ なか もとめて しあわせ なに てきかく とらえ、こべつせい じりつ・じりつしやかいさんかにもむ 障害のある人の生活を理解し、利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉え、個性のある自立・自律や社会参加 けたせいかつしえんができるようになる。 に向けた生活支援ができるようになる。</p>					
<p>じゆぎよう ないよう じゆぎようほうほう 【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>りようしや じょうたい・じょうきよう おうじたせいかつしえんぎじゆつ</p> <p>1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは</p> <p>したい ふじゆう おう かいご</p> <p>2. 肢体不自由に応じた介護①</p> <p>したい ふじゆう おう かいご</p> <p>3. 肢体不自由に応じた介護②</p> <p>しかくしょうがい おうじた かいご</p> <p>4. 視覚障害に応じた介護①</p> <p>5. 視覚障害に応じた介護②</p> <p>ちようかく・げんごしょうがい おうじたかいご</p> <p>6. 聴覚・言語障害に応じた介護①</p> <p>7. 聴覚・言語障害に応じた介護②</p> <p>じゆうふくしょうがいにおうじたかいご</p> <p>8. 重複障害に応じた介護</p> <p>ないぶしょうがいにおうじたかいご「しんぞうきのうしょうがい1」</p> <p>9. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害①)</p> <p>10. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害②)</p> <p>こきゆうきのうしょうがい</p> <p>11. 内部障害に応じた介護(呼吸機能障害)</p> <p>12. 内部障害に応じた介護(腎機能障害)</p> <p>ほうこう ちよくちゑのう しょうがい</p> <p>13. 内部障害に応じた介護(膀胱・直腸機能障害)</p> <p>しょうちゑのう しょうがい</p> <p>14. 内部障害に応じた介護(小腸機能障害)</p> <p>めんえきのう しょうがい</p> <p>15. 内部障害に応じた介護(HIVによる免疫機能障害)</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>16. 内部障害に応じた介護(肝臓機能障害)</p> <p>じゆうしょうしんしんしょうがいにおうじたかいご</p> <p>17. 重症心身障害に応じた介護</p> <p>ちてき しょうがい おう かいご</p> <p>18. 知的障害に応じた介護</p> <p>せいしんしょうがい おう かいご</p> <p>19. 精神障害に応じた介護①</p> <p>せいしんしょうがい おう かいご</p> <p>20. 精神障害に応じた介護②</p> <p>こうじのうきのう しょうがい おう かいご</p> <p>21. 高次脳機能障害に応じた介護①</p> <p>こうじ のうきのう しょうがい おう かいご</p> <p>22. 高次脳機能障害に応じた介護②</p> <p>はったゑしょうがい おう かいご</p> <p>23. 発達障害に応じた介護①</p> <p>はったゑしょうがい おう かいご</p> <p>24. 発達障害に応じた介護②</p> <p>なんびよう きんいしゆくせしそくさくこうかしよう</p> <p>25. 難病 筋萎縮性側索硬化症(ALS)</p> <p>なんびよう びよう おう かいご</p> <p>26. 難病 パーキンソン病に応じた介護</p> <p>なんびようあくせいけんせつ おう かいご</p> <p>27. 難病 悪性関節リウマチに応じた介護</p> <p>なんびよう きん おう かいご</p> <p>28. 難病 筋ジストロフィーに応じた介護</p> <p>29. まとめ</p> <p>30. 試験</p> </td> </tr> </table>				<p>りようしや じょうたい・じょうきよう おうじたせいかつしえんぎじゆつ</p> <p>1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは</p> <p>したい ふじゆう おう かいご</p> <p>2. 肢体不自由に応じた介護①</p> <p>したい ふじゆう おう かいご</p> <p>3. 肢体不自由に応じた介護②</p> <p>しかくしょうがい おうじた かいご</p> <p>4. 視覚障害に応じた介護①</p> <p>5. 視覚障害に応じた介護②</p> <p>ちようかく・げんごしょうがい おうじたかいご</p> <p>6. 聴覚・言語障害に応じた介護①</p> <p>7. 聴覚・言語障害に応じた介護②</p> <p>じゆうふくしょうがいにおうじたかいご</p> <p>8. 重複障害に応じた介護</p> <p>ないぶしょうがいにおうじたかいご「しんぞうきのうしょうがい1」</p> <p>9. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害①)</p> <p>10. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害②)</p> <p>こきゆうきのうしょうがい</p> <p>11. 内部障害に応じた介護(呼吸機能障害)</p> <p>12. 内部障害に応じた介護(腎機能障害)</p> <p>ほうこう ちよくちゑのう しょうがい</p> <p>13. 内部障害に応じた介護(膀胱・直腸機能障害)</p> <p>しょうちゑのう しょうがい</p> <p>14. 内部障害に応じた介護(小腸機能障害)</p> <p>めんえきのう しょうがい</p> <p>15. 内部障害に応じた介護(HIVによる免疫機能障害)</p>	<p>16. 内部障害に応じた介護(肝臓機能障害)</p> <p>じゆうしょうしんしんしょうがいにおうじたかいご</p> <p>17. 重症心身障害に応じた介護</p> <p>ちてき しょうがい おう かいご</p> <p>18. 知的障害に応じた介護</p> <p>せいしんしょうがい おう かいご</p> <p>19. 精神障害に応じた介護①</p> <p>せいしんしょうがい おう かいご</p> <p>20. 精神障害に応じた介護②</p> <p>こうじのうきのう しょうがい おう かいご</p> <p>21. 高次脳機能障害に応じた介護①</p> <p>こうじ のうきのう しょうがい おう かいご</p> <p>22. 高次脳機能障害に応じた介護②</p> <p>はったゑしょうがい おう かいご</p> <p>23. 発達障害に応じた介護①</p> <p>はったゑしょうがい おう かいご</p> <p>24. 発達障害に応じた介護②</p> <p>なんびよう きんいしゆくせしそくさくこうかしよう</p> <p>25. 難病 筋萎縮性側索硬化症(ALS)</p> <p>なんびよう びよう おう かいご</p> <p>26. 難病 パーキンソン病に応じた介護</p> <p>なんびようあくせいけんせつ おう かいご</p> <p>27. 難病 悪性関節リウマチに応じた介護</p> <p>なんびよう きん おう かいご</p> <p>28. 難病 筋ジストロフィーに応じた介護</p> <p>29. まとめ</p> <p>30. 試験</p>
<p>りようしや じょうたい・じょうきよう おうじたせいかつしえんぎじゆつ</p> <p>1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは</p> <p>したい ふじゆう おう かいご</p> <p>2. 肢体不自由に応じた介護①</p> <p>したい ふじゆう おう かいご</p> <p>3. 肢体不自由に応じた介護②</p> <p>しかくしょうがい おうじた かいご</p> <p>4. 視覚障害に応じた介護①</p> <p>5. 視覚障害に応じた介護②</p> <p>ちようかく・げんごしょうがい おうじたかいご</p> <p>6. 聴覚・言語障害に応じた介護①</p> <p>7. 聴覚・言語障害に応じた介護②</p> <p>じゆうふくしょうがいにおうじたかいご</p> <p>8. 重複障害に応じた介護</p> <p>ないぶしょうがいにおうじたかいご「しんぞうきのうしょうがい1」</p> <p>9. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害①)</p> <p>10. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害②)</p> <p>こきゆうきのうしょうがい</p> <p>11. 内部障害に応じた介護(呼吸機能障害)</p> <p>12. 内部障害に応じた介護(腎機能障害)</p> <p>ほうこう ちよくちゑのう しょうがい</p> <p>13. 内部障害に応じた介護(膀胱・直腸機能障害)</p> <p>しょうちゑのう しょうがい</p> <p>14. 内部障害に応じた介護(小腸機能障害)</p> <p>めんえきのう しょうがい</p> <p>15. 内部障害に応じた介護(HIVによる免疫機能障害)</p>	<p>16. 内部障害に応じた介護(肝臓機能障害)</p> <p>じゆうしょうしんしんしょうがいにおうじたかいご</p> <p>17. 重症心身障害に応じた介護</p> <p>ちてき しょうがい おう かいご</p> <p>18. 知的障害に応じた介護</p> <p>せいしんしょうがい おう かいご</p> <p>19. 精神障害に応じた介護①</p> <p>せいしんしょうがい おう かいご</p> <p>20. 精神障害に応じた介護②</p> <p>こうじのうきのう しょうがい おう かいご</p> <p>21. 高次脳機能障害に応じた介護①</p> <p>こうじ のうきのう しょうがい おう かいご</p> <p>22. 高次脳機能障害に応じた介護②</p> <p>はったゑしょうがい おう かいご</p> <p>23. 発達障害に応じた介護①</p> <p>はったゑしょうがい おう かいご</p> <p>24. 発達障害に応じた介護②</p> <p>なんびよう きんいしゆくせしそくさくこうかしよう</p> <p>25. 難病 筋萎縮性側索硬化症(ALS)</p> <p>なんびよう びよう おう かいご</p> <p>26. 難病 パーキンソン病に応じた介護</p> <p>なんびようあくせいけんせつ おう かいご</p> <p>27. 難病 悪性関節リウマチに応じた介護</p> <p>なんびよう きん おう かいご</p> <p>28. 難病 筋ジストロフィーに応じた介護</p> <p>29. まとめ</p> <p>30. 試験</p>				
<p>【使用テキスト・参考文献】 さいしん・かいごふくししやうせいこうざ 最新・介護福祉士養成講座 8・13・14 「生活支援技術Ⅲ」「障害の理解」 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 しけんやれぼーとのひようかきじゆん (試験やレポートの評価基準など) ひつきしけん ていじゆつ しゆつせきようきようじゆぎよえいど ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの そうごうひようか 総合評価とする。 いじょうのしゆつせき そうごうひようか60でんいじょうでたんいをあたえる ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。</p>			

授 業 概 要

じゆぎょう かもくめい 授業科目名 かいごそうごうえんしゅう 介護総合演習Ⅱ	じゆぎょう しゆるい 授業の種類 えん しゅう 演 習	じゆぎょうたんとうしゃ 授業担当者 みずしま みわ 水嶋 美和		
じゆぎょう かいすう 授業の回数 かい 30回	じ かんすう 時間数 じ かん 60時間	はいとうがくねん 配当学年 ねんせい 2年生		
<p> 【授業の目的・ねらい】 さいしゆだんかい かいごじしゅう む ところま どうき じぜんがくしゅう おこ じしゅう とお じっせんりよく こうじょう 最終段階の介護実習Ⅱに向けての心構えや動機づけ、事前学習などを行い、実習を通して実践力の向上 うにする。また、実習後は振り返りを通し省察を行い、介護福祉士として身につける必要がある自身の課題を 見 いく。 </p> <p> 【授業全体の内容の概要】 じしゅう ひつよう ちしき ぎじゆつ かいごか てい てんかい ちから こべつ がくしゅうたつじょうきょう おう そうごうてき まな 実習にともなう必要な知識や技術、介護過程の展開する力など、個別の学習到達状況に応じて総合的に学 ぶ ループでの話し合いを取り入れ理解を深める。 </p> <p> 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 げんだんかい み かいご じっせんりよく かくにん かだい めいかくか かいごふくしし ししつ こうじょう はか ひ 現段階で身につけた介護の実践力の確認と、課題を明確化し、介護福祉士として資質の向上を図っていく こと を 達成 する。 </p>				
<p> 【授業のテーマ・内容・授業方法】 </p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 介護実習Ⅱの目的と目標① 2. 介護実習Ⅱの目的と目標② 3. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ① 4. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ② 5. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ③ 6. 介護実習Ⅱの事前学習—実習姿勢 7. 介護実習Ⅱの事前学習—記録① 8. 介護実習Ⅱの事前学習—記録② 9. 介護実習Ⅱの事前学習—演習① 10. 介護実習Ⅱの事前学習—演習② 11. 介護実習Ⅱ(30日間)の準備と確認 12. 介護実習Ⅱ(30日間)の準備と確認 13. 介護実習Ⅱ(30日間)の振り返り① 14. 介護実習Ⅱ(30日間)の振り返り② 15. 介護実習の省察の意義 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 16. 介護実習の省察① 17. 介護実習の省察② 18. 介護実習の省察③ 19. 介護実習の省察④ 20. 介護実習の省察⑤ 21. 介護実習の省察⑥ 22. 介護実習の省察⑦ 23. 介護実習の省察⑧ 24. 介護実習の省察⑨ 25. 介護実習の省察⑩ 26. 介護実習の省察⑪ 27. 介護実習の省察⑫ 28. 介護実習の省察⑬ 29. 介護実習の省察⑭ 30. 試験 </td> </tr> </table>			1. 介護実習Ⅱの目的と目標① 2. 介護実習Ⅱの目的と目標② 3. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ① 4. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ② 5. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ③ 6. 介護実習Ⅱの事前学習—実習姿勢 7. 介護実習Ⅱの事前学習—記録① 8. 介護実習Ⅱの事前学習—記録② 9. 介護実習Ⅱの事前学習—演習① 10. 介護実習Ⅱの事前学習—演習② 11. 介護実習Ⅱ(30日間)の準備と確認 12. 介護実習Ⅱ(30日間)の準備と確認 13. 介護実習Ⅱ(30日間)の振り返り① 14. 介護実習Ⅱ(30日間)の振り返り② 15. 介護実習の省察の意義	16. 介護実習の省察① 17. 介護実習の省察② 18. 介護実習の省察③ 19. 介護実習の省察④ 20. 介護実習の省察⑤ 21. 介護実習の省察⑥ 22. 介護実習の省察⑦ 23. 介護実習の省察⑧ 24. 介護実習の省察⑨ 25. 介護実習の省察⑩ 26. 介護実習の省察⑪ 27. 介護実習の省察⑫ 28. 介護実習の省察⑬ 29. 介護実習の省察⑭ 30. 試験
1. 介護実習Ⅱの目的と目標① 2. 介護実習Ⅱの目的と目標② 3. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ① 4. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ② 5. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ③ 6. 介護実習Ⅱの事前学習—実習姿勢 7. 介護実習Ⅱの事前学習—記録① 8. 介護実習Ⅱの事前学習—記録② 9. 介護実習Ⅱの事前学習—演習① 10. 介護実習Ⅱの事前学習—演習② 11. 介護実習Ⅱ(30日間)の準備と確認 12. 介護実習Ⅱ(30日間)の準備と確認 13. 介護実習Ⅱ(30日間)の振り返り① 14. 介護実習Ⅱ(30日間)の振り返り② 15. 介護実習の省察の意義	16. 介護実習の省察① 17. 介護実習の省察② 18. 介護実習の省察③ 19. 介護実習の省察④ 20. 介護実習の省察⑤ 21. 介護実習の省察⑥ 22. 介護実習の省察⑦ 23. 介護実習の省察⑧ 24. 介護実習の省察⑨ 25. 介護実習の省察⑩ 26. 介護実習の省察⑪ 27. 介護実習の省察⑫ 28. 介護実習の省察⑬ 29. 介護実習の省察⑭ 30. 試験			
<p> 【使用テキスト・参考文献】 さいしん かいごふくししやうせいこうざ 『最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習』中央法規出版 </p>				
<p> 【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・授業態度(欠席、遅刻、早退を含む)、実習への取 組 み、実習の省察内容、筆記試験などの総合評価とす べ り の 出席、および総合評価60点以上で単位 を与 える </p>				

じっしゅうのてびき
実習の手引き

はか
が図られるよ
き
月らかにして

ぶ。また、グ

いっようせい りか
必要性を理

文り組みの姿
る。・2/3以
える。



授 業 概 要

じゆぎょう かもくめい 授業科目名 かい ごじっしゅう 介護実習Ⅱ	じゆぎょう しゅるい 授業の種類 みしゅう 実習		じゆぎょうたんとうしゃ 授業担当者 かいごせんにん 介護専任
じゆぎょう かいすう 授業の回数	じ かんすう 時間数 じ かん 270時間	はいとうがくねん 配当学年 ねんせい 2年生	はいとうじき 配当時期 つうねん 通年
<p> 【授業の目的・ねらい】 じょうほうしゅうしゅう はじ かいごけいかく りつあん けいかく じっし ひょうか かいごかてい てんかい かいご かもく 情報収集から始めるアセスメントや介護計画の立案、計画の実施・評価など介護過程を展開し、介護にかかわる科目で まな ちしき ぎじゆつ そうごうてき かつよう じっせんりよく たか 学んだ知識や技術を総合的に活用し実践力を高める。 </p> <p> 【授業全体の内容の概要】 じ かん やきんなど ふく へんそくきんむたい じっしゅう おこな 270時間のなかで夜勤等を含む変則勤務帯の実習も行う。 じっしゅう じっしゅう どうしやなど じよげん しどう う せいかつしえん じっせん つ かせ 実習では、実習指導者等の助言・指導を受けながら生活支援の実践を積み重ねるとともに、対象利用者を決め介護過 程の展開を実践する。そして、実習を通して専門職としての自覚を養う。 </p> <p> 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 せいかつしえん りようしやこ こ かだい めいかく ぐたいてき しえん のうりよく きそみ かいごふくし 生活支援にかかわる利用者個々の課題を明確にし、具体的な支援ができる能力の基礎を身につける。また、介護福祉 士のあり方や職業倫理、チームケアなどを学び、専門職としての自覚が芽生える。 </p>			
<p> 【授業のテーマ・内容・授業方法】 はいぞくじっしゅう とくべつようごろう など やきんなど へんそくきんむたい ふく じっしゅう おこな じっしゅう い か てん 配属実習とし、特別養護老人ホーム等において夜勤等の変則勤務帯を含めた実習を行う。そして、実習では以下の点 じっしゅうしどうしや じよげん しどう うけ ないよう とく について、実習指導者などの助言や指導を受けながらその内容に取り組む。 たいしよりようしや き かいごかてい てんかい じっせん ・対象利用者を決め介護過程の展開を実践する。 せいかつしえん じっせん つ かせ ・生活支援の実践を積み重ねる。 </p>			
しょう さんこうぶんけん 【使用テキスト・参考文献】 じっしゅう てび 実習の手引き かいごそうごうえんしゅう 介護総合演習テキスト		たんにんてい ほうほうおよ きじゆん 【単位認定の方法及び基準】 しけん ひょうかきじゆん (試験やレポートの評価基準など) 4/5以上の実習を行ない、実習施設の評価と担当教員の 評価の総合評価とする。	

授 業 概 要

じゆぎょうかもく めい 授業科目名 Welfare Time II	じゆぎょう しゆるい 授業の種類 えんしゆう 演習		じゆぎょうたんとうしゃ 授業担当者 みずしま みわ てらだ ともし 水嶋 美和 / 寺田 知生
じゆぎょう かいすう 授業の回数 かい 30 回	じかん すう 時間数 じかん 60 時間	はいどうがくねん 配当学年 ねんせい 2年生	はいどうじき 配当時期 つうねん 通年

【授業の目的・ねらい】
 がっこうせいかつ きほんてき りかい しゃかいじん み がっこうぎょうじ
 学校生活における基本的なルールを理解するとともに、社会人としてのマナーを身につける。学校行事やクラスイベント
 つう ひと こうりゆう にんげんてきせいちよう はか
 を通じて人との交流やチームワークなど、人間的成長を図る。

【授業全体の内容の概要】
 きかく さんか こべつ めんだん はな かた ぶんしりよく きそ きょういく おこな
 イベントの企画・参加／個別面談／話し方、マナー、文章力など基礎教育を行う。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】
 じゆぎょうしゅうりょう たっせいかだい とうたつもくひよう
 学校行事を企画、参加することで、責任感、協調性を身につけることができる。
 がっこうせいかつ しゃかいせいかつ きほんてき ぶんしりよく み
 学校生活や社会生活における基本的なマナー、文章力が身につく。

【授業のテーマ・内容・授業方法】
 ぜんき かい
 前期15回

 しんにゆうせけんげいけい けんこうしんだん
 新入生歓迎会や健康診断など
 がっこうぎょうじ きかく さんか
 学校行事、クラスイベントを企画・参加する

 かつどう こうえん しゃかいかつどう
 またボランティア活動や講演などを社会活動に
 さんか
 参加する

 こうき かい
 後期15回

 がっこうぎょうじ きかく さん
 学校行事、クラスイベントを企画・参
 か
 加する

 しゃかいせいかつ いとな え きほんてき
 社会生活を営む上での基本的なマ
 み
 ナーを身につけられるよう
 かつどう おこな
 グループ活動を行う

 かいめ しけん おこな
 15回目に試験を行う

しょう さんこう ぶんけん 【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) けいしきしけん ・レポート形式の試験 じゆぎょうたいど ・授業態度、 ぎょうじ など と く せい ていしゅつぶこうごうひょうか 行事やイベント等への取り組み姿勢、提出物の 総合評価 ぶん いじょう しゅつせき ・3分の2以上の出席
---------------------------------------	--